

---

# 遊戯王デュエルモンスターズ ?? The Emperor

C O 2

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王デュエルモンスターズ ？ ？ The Emperor

### 【Nコード】

N9509S

### 【作者名】

CO2

### 【あらすじ】

僕の名前は真田遊香。こんな名前だけど男だ。

GXの世界に転生したんだけど僕の歳は十代達より3個下！？

せっかくデュエルアカデミアに入学したのに……！！

…とりあえず、アカデミアで出会ったベルクと共に頑張っていこう！

……ん？何を？

2011年8月19日19時55分よりタイトルを「遊戯王

?? EMPerOR」から「遊戯王デュエルモンスターズ

?? The Emperor」へと変更致しました。

それと第12部に挿絵を挿入しました。

## 第零話 帰路（前書き）

遊戯王シリーズの細かいストーリーはほとんど覚えていないので、後日談という形になりました。

しばらくこちらを更新していく予定です。

「新たな歪みと革新者」を楽しみにして頂いている方々、すみません。

## 第零話 帰路

「卒業しちゃったな…」

僕の名は真田<sup>まなだ</sup> 遊香<sup>ゆうか</sup>

女みたいな名前だけど僕はれっきとした男だ。

なんでも、母さん達は女の子が生まれてくると思って女の子の名前しか考えてなかったらしい。

病院なんかで名前呼ばれたときなんかは変な目で「ほんとにあなたが真田 遊香さんですか？」なんて目で見られてしまう。

ちなみにこの世界は遊戯王GXの世界。

何でこんなことが言えるかっていうと僕は転生者だからだ。

生まれ変わるときも記憶を受け継いだまま生まれきたんだ。

で、何故か遊戯王GXの世界に転生した…

ところが！なんで僕の歳が十代達の年齢から3つ下なんだよ！？

十代達に会えなかった！！何故だー！！

くっそう…、せっかくデュエルアカデミアに入学できたと思ったのに…

…で、今デュエルアカデミアを無事卒業して船で我が家に帰ってる  
とこなんだ…。はあ……

でもまあ、入学して収穫が無かった訳じゃないんだ。

僕はデュエルアカデミアで、あるモンスターと出会った。

名前はベルク。なんとベルクは十代のパートナー、ユベルの妹だと

いうのだ。

十代達が精霊世界から帰ってくる拍子にユベルに着いて来たが置いて行かれたらしい。

ユベルは見た目どおり中性だが、ベルクは完全な女。精神年齢は16歳くらいかな。

容姿はユベルの右半分が女で左半分が男なのに対し、ベルクはユベルの完全女性版って感じ。

肌の色は人間の様な薄い肌色でユベルと同じような黒い衣服「？」を着ている。ろ…露出度が……／／／／／／／

／／／…髪はユベルと違い黒髪のストレートヘア！。正直好みなんだよなー／／／／／／／／／／／。

しかも本人はそんな気無いくせに何故か僕に色目を使ってくる…／／／／

それで毎度毎度、彼女に僕は顔を真っ赤にさせられるんだ。どうしたら…

ベルク「ん…？…ふふふっ」

うあっ、じつと見てたら小首を傾げられて微笑まれた…／／／／

……可愛いな、くそ野郎…／／／／／／／／／／

あ、話が逸れたね。

まあ、彼女の能力は僕のデッキに合っているから3積み（デッキに三枚入れること）してる。

僕のデッキは…まあ、今度デュエルする時に見せるよ。

それにしても僕はいつたい誰と話してるんだろう

あ…そろそろ港が見えてきたな。

あとちょっとで我が家だ…！

## 第一話 我が家へ（前書き）

第一話です。

まず最初のデュエルですね、というか凄くオリカです。

実際にやるのは平気なんですけど、デュエルを最初から最後まで考えるって大変ですね……

## 第一話 我が家へ

遊香「ふう…」

港に着いた。

これから電車に乗って…、家まで徒歩かな。

ベルク「着いたわね。」

遊香「うん。あ、精霊化しておいてね。」

ベルク「わかったわ。ふうっ」

そう言つて姿を透明にするベルク。

いや…だからウインクとかしないでっ…／＼／＼わざとらしく谷間とか見せなくていいからっ／＼／＼／

もう…ちよつと見つめてたらずぐそうやって…／＼／

遊香「はあ…。ん？」

あれ、おかしい。

船が陸に着いたのに他のお客さんが出てこない？

ちなみに僕は船を出てる。  
でも、誰も船から姿を現さない。船の船員さんさえも。  
僕の他にもアカデミアの卒業生とか、卒業生達の保護者とかが船に  
乗っていたはず。

遊香「…んん……??？」

ベルク『何か変ね。ううん…人の気配がしないわ…』

遊香「そうなの？」

ベルク『そうね、すっからかんよ。』

遊香「ううん…」

さすがにこういう時には空気を読んでいるのか、ベルクも色目を使  
ったりはしない。  
まあ、それはともかく…どうしよう。船の中に入ってみようか……  
でも何が起こるか分からないし…

ベルク『港の人に聞いてみたら？  
何か知っているかもしれないし。』

遊香「あ、そっか。その手があったね」

えっと……じゃあ、とりあえず港の入り口までいくか。

遊香「うん、やっぱりいい。」

ベルク『ホント、誰もいないわね。』

「ねえ、君。」

遊香「え？」

あっ！人だ！

よかった、ちゃんと人がいたよ。

同アカデミアの卒業生かな。僕と背が同じくらいだし。彼はフードパーカーを着てるから顔が分からない。

少年「君、デュエルモンスターズするの？」

遊香「え？あ、はい、しますよ。」

こんなことを聞くと事は卒業生じゃないな。僕の着てる服を見てたら分かるはずなんだけど。

つて事はデュエルアカデミアさえ知らない…？

少年「それなら僕とデュエルしてよ。」

遊香「あ…はい、分かりました。」

少年「じゃあ、先行は君でいいよ。」

遊香「分かりました。」

「デュエル！」

遊香「僕のターン、ドロー！  
モンスターをセット！」

カードを1枚セットしてターンエンド！」

少年「僕のターン、ドロー。」

僕は、暗黒界の狂王 ブロンを攻撃表示で召喚。

バトル、

ブロンでセットモンスターに攻撃。」

セットモンスターが破壊された。

だけど、僕の伏せていたモンスターはシャインエンジェル！

遊香「破壊された「シャインエンジェル」の効果発動！

このモンスターが破壊されたとき、デッキから攻撃力1500以下の光属性モンスターを特殊召喚する事ができる！

来てくれ、ベルク！」

『ベルク』

星10 / 光属性 / 天使族 / 攻0 / 守0

効果

このカードは戦闘では破壊されない。

相手ターンのエンドフェイズ時に、そのターン中に相手フィールド上に戦闘を行っていないモンスターが存在する場合、そのモンスターを全てデッキに戻し、お互いに1000ポイントのダメージを受ける。

このカードが戦闘を行う事によって受けるコントローラーへの戦闘ダメージは0になる。

自分のエンドフェイズ時に手札からモンスターを墓地へ送らなければ

はこのカードは破壊される。

このカードがこのカードの効果以外の方法で破壊された時、自分のデッキ・手札・墓地から「ベルク - Das Geliebte Ritter」1体を特殊召喚する事ができる。

ベルク『ふうふう……おまたせっ』

ベルクが深呼吸した後ウインクしてフィールドに現れた。

ほんと、ユベルの妹とは思えないよ……

まあ、とにかく……

少年「…カードを1枚セットしてターンエンドだよ」

遊香「僕のターン、ドロー！」

…カードを一枚セットしてターンエンド！

そして、「ベルク」はエンドフェイズ時に手札からモンスターを墓地へ送らなければ破壊される。

僕は手札から「螺旋天使」スパイラル・エンジェルを墓地に送る。」

『スパイラル・エンジェル  
螺旋天使』

星2 / 光属性 / 天使族 / 攻3000 / 守1000

効果

自分のスタンバイフェイズ時に墓地に存在する『スパイラル・エンジェル螺旋天使』がこのカードのみであり、自分フィールド上に光属性モンスターが存在する場合は、このカードを手札に戻す事ができる。

少年「僕のターン、ドロ―

…（…「ベルク」…あんなモンスター見たこと無い…攻撃力は0だけど、多分何か特殊な能力があるんだろうな…）  
僕はモンスターをセツトしてターンエンド」

遊香「この瞬間、「ベルク」の効果が発動！

相手ターンに戦闘を行っていない相手モンスターがいる場合、そのモンスターを全て持ち主のデッキに戻し、お互いに1000ポイントのダメージを受ける！」

少年「なっ…きゃあ！」

遊香LP4000 3000

少年LP4000 3000

ベルクが起こした風でブロンが吹き飛ばされる。

それと同時に彼のフードがめくれる。

あれ…？彼…って言うか、彼女は女の子？！

彼、もとい彼女の髪は肩まで伸び、よく見るとすごく華奢な体をしていた。

な…なんだ、女の子だったのか。あー、もしかして何か失礼なことしちゃってないかな

と、とりあえず、か：彼女と僕のライフが3000になった。

少年もとい、少女「永続罨、「闇の呪縛」を発動、ベルクを選択する。

このカードがフィールド上に存在する限り、ベルクの攻撃力は700下がり、攻撃宣言と表示形式の変更ができない。  
カードを1枚セットしてターンエンド。」

遊香「僕のターン、ドロ！」

この瞬間、墓地に存在する「螺旋天使」スバイラル・エンジェルの効果発動！

墓地に存在する「螺旋天使」スバイラル・エンジェルがこのカードのみであり、フィールド上に存在するモンスターが光属性モンスター1体のみの場合にこのカードを手札に加えることができる！

僕は「螺旋天使」スバイラル・エンジェルを手札に加えて、

更に手札の「ライト・グレファアー」の効果発動！

手札のレベル5以上の光属性モンスター1体を墓地に送る事で、このカードを特殊召喚する！

手札からレベル8の「智天使ゼラート」を墓地に送り、「ライト・グレファアー」を特殊召喚！」

『ライト・グレファアー』

星4 / 光属性 / 戦士族 / 攻1700 / 守1600

効果

このカードは手札からレベル5以上の光属性モンスター1体を捨てて、手札から特殊召喚する事ができる。1ターンに1度、手札から光属性モンスターを捨てる事で、自分のデッキから光属性モンスター1体を選択して墓地へ送る。

もう気付いたと思うけど、僕のデッキは光属性。  
しかも、現実世界で出ていた「ダークモンスター」シリーズと対を  
成す、「ライトモンスター」シリーズだ。  
ベルクも光属性だから、このデッキには合ってるんだよ。

遊香「よし。」

今、僕の墓地には光属性モンスターが2体のみ！  
よって、僕はこのモンスターを特殊召喚できる！  
現れよ、「ライト・アームド・ドラゴン」！

『ライト・アームド・ドラゴン』  
星7 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻2800 / 守1000  
効果

このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する光属性モン  
スターが2体の場合のみ特殊召喚する事ができる。自分のメインフ  
ェイズ時に自分の墓地に存在する光属性モンスター1体をデッキに  
戻す事で、フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

僕のフィールドの「ライト・グレファア」の隣に白と金のアームド・  
ドラゴンが現れた。  
これは僕の勝ちだね。

遊香「「ライト・グレファア」の効果発動！

手札から光属性モンスター1体を墓地へ送ることで、デッキから光

属性モンスターを墓地へ送る事ができる！

僕はさつき手札に戻した「螺旋天使」スパイラル・エンジェルを墓地へ送り、デッキから「シャインエンジェル」を墓地へ送る。

そして「ライト・アームド・ドラゴン」の効果発動！

墓地の光属性モンスター1体をデッキに戻し、フィールド上のカードを1枚破壊する！

そして僕はこの効果を4度使用する！

墓地の光属性モンスター、「シャインエンジェル」、「智天使ゼラート」スパイラル・エンジェル、「螺旋天使」、2枚目の「シャインエンジェル」を全てデッキに戻し、伏せカード3枚と「闇の呪縛」を破壊！

バトル！「ライト・グレファア」、「ライト・アームド・ドラゴン」、ついでに「ベルク」でダイレクトアタック！

バオウ・ライトニング！ホーリーヴァニッシャー！ええっと、ま…マキシマムプレジャー！」

マキシマムプレジャーっていうのは「最高の快樂」って意味。なんでそんな攻撃名なのか…／／／／／／

少女「っ、きゃあああああああ！！！」

少女LP 3000 1300 0

ふう……勝てたね。

「暗黒界の狂王 ブロン」を使ってたから彼女のデッキは【暗黒界】かな。

少女「負けちゃったな……」

遊香「いやあ、手札が良かったただけですよ。」

うん、見た感じでも、話しててもいい人だ。  
最初は怪しかったけど。

少女「あ、名前教えてよ。  
ちなみに僕は笹木藍沙っていうの」

遊香「藍沙さんですか…  
僕は真田遊香っていいいます。  
女みたいな名前ですけど」

藍沙「あはは。ホント、可愛い名前だねっ」

わ、わあ…名前でも可愛いなんて言われたの初めてだな…  
ん？何で睨んでくるの、ベルク？  
あ…あれ…

遊香「あれ、人が…？」

さっきまで僕ら以外、誰もいなかったのに。  
嘘みたいに人がいつぱい

ベルク『あら…？』

さっきの「はどこかしら？」』

遊香「あれ…？」

ほんとだ、今度は藍沙さんがいない…」

うっん…一体どういう事だろう…

まあいいか、速く電車に乗って家に帰ろう…！

第一話 我が家へ（後書き）

いかがでしたでしょうか。

## キャラクター説明（前書き）

短くてごめんなさい。

## キャラクター説明

こんにちは〜

遊香「こんにちはー」

ベルク「ご無沙汰です」

さて、始めました遊戯王 ??? EMPEEROR第二話！  
まあ、今日はただのキャラ説ですが。

遊香「でも重要な気がします！」

ベルク「ではどお〜ぞお〜」

さなだ ゆうか  
真田遊香

性別：男

年齢：19歳

イメージCV：小林ゆう

何も起こらず平穩だったデュエルアカデミアを卒業し、旅に出た本作の主人公。

髪型は肩までのストレートヘアで先が跳ねている。前髪は右側に寄り分けており、色は鈍い黄土色。瞳の色は金。  
精霊「ベルク」にいつも弄ばれており、その度に顔を紅く染めている。

ちなみに以前「ベルク」に生身の裸体を見せられた時、鼻からの出

血多量で危うく死に掛けた。

使用デッキはモンスターをデッキに戻すことに特化した本作オリジナルシリーズ、「ライトモンスター」と、まだ登場していないオリジナルシリーズ【ハーモニー】

ベルク

性別：女

年齢： - -

イメージCV：能登麻美子

遊香のデッキのエースカード、「ベルク」の精霊  
あらゆる手段を使い、妖艶に遊香を誘惑する。

しかし、遊香に対して恋愛感情を抱いているわけではなく、  
精霊であるため、遊香はあくまでも主。

また、ユベルの妹でもある。

容姿はユベルの右半分版（ユベルの体は右半身が女性、左半身は男性）であり、完全な女性。

髪はくびれ辺りまで伸びる黒髪ストレート。

エンドフェイズに戦闘しなかった相手モンスターをデッキに戻す誘発即時効果を持っている。

まあこんなもんですね。

ベルク「まずは私と遊香の説明ね」

遊香「【ハーモニー】って何ですか？」

それは登場してからのお楽しみさ。

ではまた時械…じゃなかった…また次回！！

ベルク・遊香「ばいばい〜い！」

## 第二話 不気味に微笑む少女

ガチャ

遊香「着いたああ…」

ベルク『へええ…ここが遊香の家ね』

遊香「うん。そうだよ」

転生しても僕の家や住む場所は変わらなかった。  
やっぱり平行世界ってことなんだな。

ガチャ

遊香「ふう…！」

部屋に入ってベッドにダイブ！  
わあ、変わってないや…（入学前と比べてね）



遊香「うん……」

あーあ、床が真っ赤になっちゃった……  
あとで掃除しなきゃ

ベルク『ごめんね……？』

遊香「……まあ、別にいいよ」遊香あー？

あ、母さんだ。

遊香「ごめんねベルク、母さんが呼んでるから……」

ベルク『気にしないでいいわよ』

遊香「わかった」

遊香は下に降りていった

ベルク『……この床このままでいいのかしら……』

一人つぶやくベルクであった…



「……………」

あれ…ここは…？

見渡すと家の近くのデパートの中。

あれ…？僕は確か自分の部屋にいて…

もう一度見渡してみる。

誰の気配もしない静かなデパート。

普段来るときは1メートル先も見えないほど人がいるのに今は辺りがシンとしている…

いつもすぐ横にいるベルクもいない

ベルク…？ベルクって誰だ…？

あ…そういうば…こんなこと前にも…  
確かあの時僕は……

「ねえ」

遊香「え…?」

「僕とデュエルしようよ」

遊香「藍沙…さん…?」

藍沙「フフ……………」



## 第二話 不気味に微笑む少女（後書き）

オリカ募集します。

光属性、悪魔族、ドラゴン族、天使族の各サポート魔法・畏を募集いたします。

思いつかれましたら感想の方にお書きください。

また、それ以外のカードでも、思いつかれましたらジャンジャン書き込んでいただきたいです。

全てとはいけないかもしれませんが劇中で使用していきたいと思いません。

読者の方々、よろしくお願いします。

### 第三話 時空の使者達VS指揮者達と調和の弦竜

遊香「藍沙……さん……」

藍沙「ねえ、デュエルしないの？」

状況を整理しよう……

僕は皿洗いが終わって、自分の部屋でこれから寝ようとしていた。だけど急に意識が遠のいて……

気づいたら僕は自分の家の近くにある、この大型デパートにいた。

そこで……藍沙さんが再びデュエルを申し込んできた。

普通こんなところでバツタリ会ったら

『こんな場所でまた会えるなんて、奇遇だね！』

なんて明るい話題が飛び出していたら。それが普通だ……

だけど状況が状況だ……今、目の前にいる藍沙さんはとても不気味で……

とてもじゃないけどそんなテンションにはならない。

藍沙さんが……怖い……

遊香「は……はい。わかりました……」

藍沙「やった」

……何か【ライトモンスター】じゃ敵わない気が……  
だったら……！

「デュ……」「デュエル！」「」

藍沙「それじゃあ僕が先行をもらっね。

僕のターン、ドロー！

僕はフィールド魔法、「時空塔 アカシックタワー」を発動！」

デパートだった景色が崩れ何も無い平原となり、そこにビル20階分はあるだろう、神話に出てくる様な高い塔が現れた。

それにしても時空塔……？

聞いたことが無い……まさか……

藍沙「モンスターをセット、カードを一枚伏せ、ターンエンド。」

遊香「くっ、僕のターン、ドロー！

僕は手札から、「ハーモナイズ・スフィア」を特殊召喚！

「ハーモナイズ・スフィア」は、相手フィールドのモンスターの数が自分フィールドのモンスターの数よりも多い場合、特殊召喚することができる！」

金色の粒子を纏った球体が現れた。

『ハーモナイズ・スファイア』

星3 / 光属性 / 機械族 / 攻0 / 守0

効果

相手フィールド上のモンスターの数が自分フィールド上のモンスターよりも多い場合、このカードを手札、または墓地から特殊召喚する事ができる。

「そして「ハーモナイズ・スファイア」を生け贄に捧げ、「ハーモナイズ・ゴースト」を生け贄召喚！」

『ハーモナイズ・ゴースト』

星5 / 光属性 / 悪魔族 / 攻2400 / 守1500

効果

1ターンに1度、自分のスタンバイフェイズ時に手札から「ハーモ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

『ハアアアアアアア...』

金色の球体が形を変え、不定形の幽霊を形作った。

遊香「「ハーモナイズ・ゴースト」で、裏側守備表示モンスターを攻撃！」

ハーモニタービアンクシャス！」

金色の幽霊が炎を吐いた。

だが突然空間が歪み、その歪みが炎を吸収した。

藍沙「畏発動！「時空昇天」！

デッキから「時空塔」と名のついたモンスターを1枚墓地に送ることで相手モンスター1体の攻撃を無効にする！

僕はデッキから「時空塔の軍師 テレス」を墓地に送るね。」

「時空昇天」……

ああいうタイプのカードは大抵、効果よりもコスト……

つまり「時空昇天」の場合は墓地を肥やす事を目的に使うんだろうな。

これは気をつけたほうがいいね……。何が飛んでくることやら……

遊香「僕はカードを2枚伏せて、ターンエンド。」

藍沙「僕のターン、ドロー。」

この瞬間、裏側だった「時空塔の守護兵 マグヌス」を反転召喚。

そしてこのカードがリバーズした時、相手フィールド上の魔法・罫カードを1枚破壊する！

私から見て右側のリバーズカードを破壊！」

『時空塔の守護兵 マグヌス』  
星3 / 光属性 / 戦士族 / 攻900 / 守1000  
このカードはフィールド上に『時空塔 アカシックタワー』が存在しない場合、この効果以外の効果は無効化される。  
このカードがリバーズした時、相手フィールド上の魔法または罫力カード1枚を破壊する。

遊香「くっ！」

ミラーフォースが…！でもまだ！

藍沙「時空塔の戦士 アリスト」を召喚！」

『時空塔の戦士 アリスト』  
星4 / 地属性 / 戦士族 / 攻1000 / 守1000  
このカードは相手モンスターと戦闘を行う場合、ダメージステップの間攻撃力・守備力は1000ポイントアップする。  
また、フィールド上に『時空塔 アカシックタワー』が存在し、このカードが相手モンスターに攻撃する場合、このカードの攻撃力はダメージステップの間1000ポイントアップする。

藍沙「バトル！「アリスト」で…」

遊香「待った！メインフェイズ終了時、<sup>トランジェン</sup>畏発動！静寂の音色！  
相手モンスターの表示形式を裏側にする！そして、このカードは発

動後、再びセットされる。」

藍沙「そう…。カードを2枚セットしてターンエンド。」

ふう…。とりあえずは防戦一方。お互いにライフは増減していない。ただ、攻撃力の低い「アリスト」で「ゴースト」を攻撃しようとした…。

つまり「異次元の女戦士」や「D・D・アサイラント」みたいな除去効果…もしくは攻撃力がアップする様な効果を持っている可能性がある…。

効果が分からない以上、攻撃を防いだ今でも油断はできない。

遊香「僕のターンドロー！」

スタンバイフェイズ時、「ハーモナイズ・ゴースト」の効果発動！手札から「ハーモ」と名のついたモンスターを特殊召喚できる！「サンダ・ハーモナイザー」を特殊召喚！」

金色の幽霊の影から、笛を持ち、黄色いオーラを纏った天使の少女が現れた。

『サンダ・ハーモナイザー』  
星2 / 光属性 / 天使族 / 攻500 / 守1500  
チューナー

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル3以

下のモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚することができる。  
この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

遊香「そしてハーモ・ヘッジホッグを召喚！」

『ハーモ・ヘッジホッグ』  
星3/地属性/天使族/攻600/守600  
効果

自分フィールド上に天使族チューナーが表側表示で存在する場合、  
このカードを墓地から特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚したこのカードが墓地に存在する場合、そのタ  
ーンのエンドフェイズ時にこのカードはゲームから除外される。

黄色いオーラを纏った天使が笛を吹き、ハーモニカを啜えたねずみ  
が現れる。そして…！

遊香「レベル3のハーモ・ヘッジホッグに、レベル2のサンダ・ハ  
ーモナイザーをチューニング！」

藍沙「フフ……来たわね……」

遊香「…金色こんじきの調和の飛竜よ、轟く迅雷の中で我を導け！シンクロ  
召喚！

来たれ、サンダー・ワイバーンッ！…」

黄色いオーラを纏った天使が二つの星となり、ハーモニカを啜えたネズミを包み込む。  
するとネズミが黄金に輝き、その中から金色の雷を纏った2mほどの巨大な飛竜が降臨した。

「グウオオオオオオオ！！！！」

このデュエル、勝たなきゃいけない気がする……！！

遊香「サンダー・ワイバーンで裏側となったアリストに攻撃！  
ボルテックブレイズ！」

バチチバチチチ…  
ビギユウウウウン！！！！

サンダー・ワイバーンの牙が電気を纏い、金色のプレスを吐き出した。

そして金色のプレスがオープンされたアリストを貫き消滅させた。

遊香「ハーモナイズ・ゴースト」で、「マグヌス」を攻撃！  
ハーモニービアンクシャス！」

再度、金色の幽霊が炎を吐き、防がれることなく「マグヌス」を焼き尽くす。

そしてその炎が藍沙さんに向かう。

藍沙「くっ…！」

藍沙 LP 4000      2500

よし、とりあえずは藍沙さんの場をがら空きに出来た。  
でも…まだ油断は出来ない

遊香「ターンエンド」

藍沙「僕のターン、ドロー！フッ…」

何…笑った…？

愛沙「カードを1枚伏せ、僕は手札から、時空塔の治癒姫 アルク  
ンテリアの効果を発動！」

遊香「何?!」

『時空塔の治癒姫 アルクンテリア』

星1 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻700 / 守0

チューナー

このカードがフィールド上に存在する限り、このカードをシンクロ召喚のシンクロ素材とする事ができない。

自分のメインフェイズ時に手札がこのカードのみの場合、このカードと自分の墓地に存在するとチューナー以外のモンスターを任意の枚数ゲームから除外し、このカードを含む除外したモンスターのレベルの合計と同じレベルのシンクロモンスターをシンクロ召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する事ができる。

藍沙「時空塔の治癒姫 アルクンテリア」は、メインフェイズ時に手札がこのカードのみの時、このカードと自分の手札、墓地のチューナー以外のモンスターを任意の数除外し、除外したモンスターのレベルの合計の数値と同じレベルのシンクロモンスターをシンクロ召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する事ができる。僕は墓地の「アリスト」とこのカードをゲームから除外する！」

1 + 5 = 6

藍沙「…世界の歪み現れし時、時空塔に潜みし戦の狂鬼は目覚める！シンクロ召喚！出でよ、時空塔の戦鬼 アルベトス！」

『時空塔の戦鬼 アルベトス』

星6 / 闇属性 / 戦士族 / 攻2700 / 守1500

シンクロ・効果

フィールド上に『時空塔 アカシックタワー』が存在する場合、このカードはカードの効果では破壊されない。

自分の墓地に存在する『時空塔』と名の付いたモンスター1体をゲームから除外する事で、相手フィールド上のカードを2枚まで破壊する。

その後、相手はこの効果で破壊したそれぞれのカードの種類と同じ種類のカードを破壊したカードの枚数分デッキから選択して墓地へ送る。

この効果を使用したこのカードは、このターン攻撃宣言を行うことが出来ない。

藍沙さんのフィールドに模様や顔など、何も書かれていない真っ白な仮面をつけた悪魔の姿をした戦士が現れた。

44

遊香「シンクロ召喚！？しかも手札から?!」

藍沙さんもシンクロ召喚を使う…。

これで確信できた。“彼女はこの世界の人間じゃない”  
なら何者なんだ…？

藍沙「『アルベトス』の効果発動！」

遊香「!?!」

藍沙「フィールド上に「時空塔 アカシックタワー」が存在する時、墓地に存在する「時空塔」と名のついたモンスター1体をゲームから除外することで、相手フィールド上のカードを2枚まで破壊する！  
「ハーモナイズ・ゴースト」と「サンダー・ワイバーン」を破壊！  
！」

遊香「くっ！」

「ゴースト」と「サンダー・ワイバーン」が…。  
くっそう……

藍沙「そして、相手はこの効果で破壊したそれぞれのカードの種類と同じカードを破壊した種類の数墓地へ送る。」

遊香「なら…僕は「ホワイトポータン」と「ハーモ・ヘッジホッグ」を墓地へ送る。」

藍沙「この効果を使った「アルベトス」はこのターン中攻撃できない。ターンエンド」

遊香「く…僕のターン、ドロー！」

来い！

！……………よし！…墓地の「ハーモナイズ・スフィア」の効果発動！  
このカードの効果は墓地からでも発動できる。僕のフィールドよりも藍沙さんのフィールドのモンスターが多いため特殊召喚する！  
そして、「コンダクト・ハーモナイザー」を召喚！  
「コンダクト・ハーモナイザー」の効果！このカードが召喚に成功した時、墓地のレベル3以下の天使族を特殊召喚できる！さつき墓地へ送られた「ホワイトポータン」を特殊召喚！」

『コンダクト・ハーモナイザー』  
星4 / 光属性 / 天使族 / 攻0 / 守1500  
チューナー

このカードが召喚に成功した時、墓地に存在するレベル3以下の天使族モンスター1体を特殊召喚することができる。  
この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化され、攻撃宣言を行う事ができない。

このカードをシンクロ素材とするシンクロ召喚は無効にされない。

藍沙「「アルベトス」の効果は仇になつたね…」

……………レベル3「ハーモナイズ・スフィア」、レベル1「ホワイトポータン」に、レベル4「コンダクト・ハーモナイザー」をチューニング！

格高き調和の弦竜よ、その黄金の偉大な力で我等を導け！！シンク



遊香「「ストルハーモナイズ・ドラゴン」がシンクロ召喚に成功した時、デッキからカードを2枚ドロウする事ができる！ドロウ！  
……手札から罫カード<sup>トラップ</sup>、「ソニックブームエクスプロード」を発動  
！」

『ソニックブームエクスプロード』  
通常罫

自分フィールド上に存在する「ハーモナイザー」と名の付いたモンスターまたは「ハーモナイザー」と名の付いたモンスターをシンクロ素材とするシンクロモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターと相手フィールド上に存在する魔法・罫カードを全て破壊する。

また、自分フィールド上に「ハイハーモナイズ・ドラゴン」が存在する時、このカードを手札から墓地へ捨てる事でフィールド上に存在する魔法・罫カードを全て破壊する。

藍沙「罫カード<sup>トラップ</sup>！？手札から？！」

遊香「うん。このカードには二つの効果がある。

一つはフィールドの「ハーモナイザー」か、「ハーモナイザー」をシンクロ素材としたシンクロモンスター1体と相手フィールドの魔法・罫を全て破壊する効果。

そしてもう一つは、フィールドに「ストルハーモナイズ・ドラゴン」がいる時、手札からこのカードを捨てることで、フィールド上の魔法・罫カードを全て破壊する効果……！」

藍沙「！！、させない！リバーカードオープン！速攻魔法、「時空間迎撃」！」

デッキから「時空塔」と名のついたモンスターを墓地へ送り、魔法・罠の効果を無効にし破壊する！」

遊香「無駄だ！カウンター罠、「アヌビスの裁き」！」

手札を1枚捨て、相手の、「魔法・罠を破壊する効果」を持つ魔法カードの発動を無効にし破壊する！」

そして、相手フィールドのモンスターを破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを与える！」

「アヌビスの裁き」

カウンター罠

手札を1枚捨てる。

相手がコントロールする「フィールド上の魔法・罠カードを破壊する」効果を持つ魔法カードの発動と効果を無効にし破壊する。

その後、相手フィールド上の表側表示モンスター1体を破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える事ができる。

藍沙「くっ！？カウンター罠、「黒板けしの罠」！」

自分が受ける効果ダメージを無効にする！その後、相手は手札を1枚選択して捨てるっ」

『黒板消しの罫  
カウンター罫<sup>トラップ</sup>』

ダメージを与える効果が発動した時に発動する事ができる。  
自分が受けるその効果ダメージを無効にし、相手は手札を1枚選択  
して捨てる。

遊香「だけど、「アルベトス」は破壊される！」

藍沙「くっつ！」

遊香「これで終わりだ！」

バトル！「ストルハーモナイズ・ドラゴン」で攻撃！  
ソニックブームエクスプロード！！！！」

『スウウウウウウウウウ……ヴァアアアアアアアアアアアア  
アアアア！！！！！！！！！！』

藍沙「く……！うあああああ……！！！！！！！！」

「ストルハーモナイズ・ドラゴン」の吐き出した黄金のプレスが藍  
沙さんを貫いた。  
もちろんソリットビジョンだけ。

藍沙「はあ……また……負けちゃったね……」

遊香「あ……ええ……。あ、あの……」

藍沙「じゃあまたね。」

遊香「あ！ちよ、ちよっと待って！」

藍沙「大丈夫……また会うことになるよ……」

遊香「はっ……………あ…ベルク…ク…？」

ベルク『あ！遊香！？ごめんね！大丈夫！？』

遊香「あ…うん……………」

それから、僕は港で出会った藍沙さんと夢の中でデュエルした事を話した………

### 第三話 時空の使者達VS指揮者達と調和の弦竜（後書き）

随時オリカを募集しています。

光属性、悪魔族、ドラゴン族、天使族の各サポート魔法・畏をお願いいたします。

上記以外のカードでも思いつかれましたら感想にお願いします。

CO2でした。

## 第四話 彼は意外とキレやすい

遊香「つまりユベルを探したいんだね？」

ベルク『ええ。姉兄あにいちゃんと遊城十代を探したいの。見つけたらデユエルも出来るし、遊香も得するでしょ？』

遊香「あ、あにえいちゃん…？」

ベルク『え？あ、ああ。ユベルのことよ』

ふむ…性別が曖昧だから“お兄ちゃん”と“お姉ちゃん”を掛け合  
わせたわけか…。  
まあそれはいいか。ともかく、

遊香「それはわかったよ。でも問題は…」

ベルク『ええ、彼らの居場所に全く見当がつかないのよね…』

ふむ…いきなり困ったぞ…。

ベルク『どおしむあしよあ……』

そう言つて肘付いて寝転ぶベルク。あ、この娘考える気無いな？

遊香「こういう時は…やっぱりインターネットかな…むう……」

ネットで探すとしてもどうやって探そう…知恵袋…？  
んなわけないか。

「海月頭クラゲの茶髪クラゲの男見ませんでしたか？」とかかな？  
あほらし……

ベルク『あ！そーだ！』

遊香「ぬうわ!？」

ベルク『電話すればいいんだあ』

っは？

今このアマ何つった？

電話だと…？

ベルク『えつと…番号は…』

遊香「ブええルクーーーーー！！！！！！！！！！」

ベルク『ほえ？』

遊香「デュエルじゃコンチクショオオオオオオオオ！！！！！！！！！！」  
「！！！！」

ベルク『ひゃ、ひゃいひゃい！！！！！！！！！！？？（な、なんでえ？  
何で遊香怒ってるのお…？）』

ベルク『じゃ、じゃあとりあえず…、じゅ、準備できたよ…?』

遊香「はやくしやがれ……。てめえの先攻だ」

ベルク『は、はいいいい……（ひいいいいいい！……！）』

そう言つて腕から生えた天使の翼の様な、ユベルのモノとは対照的なディスクを構えるベルク。

それはそうとして…ヒヒヒ…怖がってる怖がってるWWW

ベルク『わ、私のターン、どど、どドロ…

て、手札から「快樂の杯」発動…。

手札からつ、光属性モンスターを二枚捨てて…す、捨てたモンスターの合計の、れれレベル以下のモンスターを…とく、特殊召喚…えつと…し、「シャイン・エンジェル」と「ライト・オブ・オーダ―」を捨てて、「ベルク」を特殊召喚…』

『快樂の杯』

通常魔法

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合に発動する事ができる。

自分の手札からモンスターを2枚まで捨てる。

捨てたモンスターの合計のレベル以下の光属性モンスター1体を特殊召喚する。

このカードを発動する場合、このターン、カードをセットすることができず、通常召喚を行うことができない。

ベルク『え、エンドフェイズ…「ベルク」の維持コストで「螺旋天<sup>スパイラル・エンジェル</sup>使」を墓地へ送るわ…』

遊香「俺のターン、ドロ〜。

手札から「ブラックピース・ビースト」を召喚。更に手札から「オセロゲーム開始」を発動。

フィールド上に「ブラックピース」または「ホワイトピース」と名のついたモンスターが存在する時、対応するトークン1体を特殊召喚する。

俺の場に「ブラックピース」と名のついた、「ブラックピース・ビースト」が存在することにより、「ホワイトピーストークン」を準備表示で特殊召喚。」

『ブラックピース・ビースト』

星4 / 闇属性 / 獣族 / 攻1900 / 守1000  
通常

オセロ盤より出でし黒駒の獣。仲間の白駒と黒駒がいることで更なる力を発揮する！

『オセロゲーム開始』

通常魔法

自分フィールド上に存在するモンスターが表側表示で存在する「ブラックピース」または「ホワイトピース」と名のついたモンスター1体しか存在しない場合のみ発動する事ができる。

「ブラックピース」と名のついたモンスターのみ存在する場合は「ホワイトピーストークン」（岩石族・光・星2・攻/守1000）1体を、「ホワイトピース」と名のついたモンスターのみ存在する場合は「ブラックピーストークン」（岩石族・闇・星2・攻/守1000）1体を特殊召喚する。

遊香「更に「黒白反転」を発動！「ブラックピース・ビースト」と「ホワイトピーストークン」の二体を反転融合！  
出でよ、「ブラックピース・ソーサー」！！」

『ブラックピース・ソーサー』

星6 / 闇属性 / 岩石族 / 攻2400 / 守2000

融合・効果

「ブラックピース」と名のついたモンスター1体＋「ホワイトピース」と名のついたモンスター1体

このカードは「黒白反転」の効果及び「ホワイトピース」と名のついたモンスターの効果でしか融合召喚できない。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上のモンスターカードゾーン<sup>①</sup>は使用できない。  
このカードが光属性または闇属性モンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊する。  
1ターンに1度、このカードをエクストラデッキに戻し、エクストラデッキから「ホワイトピース・ソーサー」を融合召喚扱いとして特殊召喚する事ができる。

この効果はこのカードを融合召喚したターンには発動できない。

### 『黑白反転』

#### 通常魔法

自分の手札、フィールド上に存在する融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、「ブラックピース」または「ホワイトピース」と名のついたモンスターを融合素材とする融合モンスター1対をエクストラデッキから融合召喚扱いとして特殊召喚する。

このカードの発動に対して発動した魔法・罫・効果モンスターの効果は無効化される。

遊香「ブラックピース・ソーサー」が存在する限り、自分のモンスターカードゾーン<sup>②</sup>は使用不可能になる。

更に速攻魔法、「角取り・W」<sup>ホワイト</sup>を発動！

相手フィールド上に「ホワイトピーストークン」を任意のモンスターカードゾーンに特殊召喚。

そしてこの効果で特殊召喚したモンスターがフィールド上に存在する限り、「ホワイトピーストークン」の隣のモンスターの効果は無効化される！

「ベルク」の隣のモンスターカードゾーンに「ホワイトピースト

クン」を特殊召喚！」

『角取り・W』ホワイト

速攻魔法

相手フィールド上に「ホワイトピーストークン」（岩石族・光・星  
2・攻/守1000）1体を任意のモンスターカードゾーンに特殊  
召喚する。

このカードの効果で特殊召喚したモンスターがフィールド上に存在  
する限り、「ホワイトピーストークン」の隣のモンスターの効果は  
無効化される

ベルク『?（。 。 ;）』

遊香「バトルフェイズ！」

ブラックピース・ソーサーでベルクを攻撃！ブラックピースインベ  
ーション！」

ベルク『きゃああつ！』

4000 1600

遊香「そして、速攻魔法、「形勢逆転反転！」を発動！

フィールド上のモンスターをすべて破壊し、二つの効果から一つを  
選択して発動する！」

僕は二番目の効果、この効果で破壊された「ブラックピース」1体の攻撃力分のダメージを与える！」

『形勢逆転反転！』

速攻魔法

自分フィールド上のモンスターを全て破壊し、以下のいずれかの効果を適用する。

このカードの効果で破壊された「ホワイトピース」と名のついたモンスターの数まで相手フィールド上のカードを破壊する。

このカードの効果で破壊された「ブラックピース」と名のついたモンスター1体の攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

ベルク『きゃあああああ！！！！！！！』

16000

遊香「あんなことでイライラしてごめんね。」

ベルク「い、いいわよ。私も悪かった(?)から」

よかった、ベルクも反省(?)してくれたみたいだし。  
じゃあ…電話だったかな。

遊香「じゃあ早速電話を…」

ベルク「あ、でも私あの二人の電話番号知らないわあ…どうしまし  
よ」

ああ…?

ベルク「どうしましょうかねえ…」

遊香「ねえベルク。」

ベルク「ほえ？」

遊香「もう一回デュエルしようか」

ベルク『あ、あれ…？ま、まだキレてらっしやる…？』あ、あの…さっきやったばかり…

「デュエルしようか？」

ベルク『はい』



## 第五話 VS万丈目！激誕、『ボルテック・アームド・ドラゴン』！

そんなこんなで（前回の通り）ひと悶着はあったものの、十代（ていうか十代先輩かな…？）を探すことになった僕達。

とりあえず色々調べたり、他の原作キャラ…例えば明日香…もとい明日香先輩とか、万丈目…もとい万丈目先輩に会ってみたり。でも結局彼ら、アカデミア校卒業生には重要な情報は得られなかった。

一応、アドレスは交換したけどね。

で、他にも色々試したりしてようやく彼等がエジプト付近にいることが分かった。

万丈目：じゃなかった。万丈目先輩は、「落ちこぼれとは言え可愛い後輩のためだ、交通費くらい出してやらんでもない。」とか言いながら（おそらく喜んで）交通費を出してくれた。

誰も望んでないレッスンをありがとう！という感じだったね。

『あつついわね…』

どうやらいくら精霊とか言っても暑さは感じるらしいベルク。

「僕だって暑いんだよ。言ってるのもっと暑くなるよ」

「まったくだ。言い出した張本人なんだからしっかり歩け。それが嫌ならカードの中に戻ってろ」

と、言ってるのは万丈目：先輩。

散々文句を垂れ流しつつ着いて来た、極度のデレツンさんである。結局十代：先輩に会いたいんだろつな…というか、男のデレツンさんって気持ち悪いだけなんだけど。ていうか精霊見えるんだったね。一応驚いた振りしておいたけど。

『ていうかアニキいゝ、ほんとにこんな場所に十代のアニキがいるのかしらあゝ』

って言ってるのはおジャマイエロー。喋り方が気持ち悪いなあ…でも言いたいことは分かる。

何たってあたり一面砂漠だからなあ…

「まったくだ…、一体いつまで歩けばいい。」

「ええと、とりあえず街に着くまでですね。」

「はああ…。こんな事なら、兄さんたちに旅客機を借りてくるんだつたな…」

「それはやめた方がいいですよ。」

「なに？」

「今は比較的安定してますが、ここは砂嵐が耐えない場所なんです。」

「……そうか。」

ああ……、もう元気がないみたいだ。

「もう少しの辛抱ですよ。今夜ここに留まってしまうえば確実に砂嵐が来ますから。」

「わかっている……。」

そして1時間後

「ここか…街は…」

「なんか、シンプルに砂漠の街だなあ…」

「…よし。おい、真田。」

「え？あ、はい」

「デュエルしろ真田。一度お前の実力を見ておきたいからな。」

「フツ、わかりました！」

「やっぱりアニメ初期の万丈目（先輩）とは違うなあ。」

「デュエル!!」

「俺の先攻、ドロー！」

「アームド・ドラゴンLv3」を召喚！

そして、魔法カード、「レベルアップ！」を発動！

「アームド・ドラゴンLv3」進化させる。出でよ、「アームド・ドラゴンLv5」！

カードを1枚セットし、ターンエンドだ！」

「僕のターン、ドロー！」

「セイクリッド・ドライブ」を特殊召喚！

このカードは相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合特殊召喚する事ができる！」

「セイクリッド・ドライブ」

星1/光属性/天使族/攻1000/守1000

効果

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

「だがそのモンスターの攻撃力は1000！俺の「アームド・ドラゴン」には遠く及ばないぞ！」

出たよ、すぐこれだ。どうやらこれだけは変わってないみたいだね。

「焦らないでください万丈目先輩！僕はまだ通常召喚もしていませんよ！」

更に「セイクリッド・ドライヴ」を生け贄に捧げ、「雷帝ザボルグ」を生け贄召喚！

「雷帝ザボルグ」の効果発動！このカードの生け贄召喚成功時、相手モンスター1体を破壊する！

「アームド・ドラゴンLv5」を破壊！」

「くっ！まだまだ！<sup>トラップ</sup>罠カード、「法律」を発動！

自分フィールド上のモンスターが相手によって破壊された時、相手フィールド上のカード1枚を破壊する！

「雷帝ザボルグ」を破壊！」

「くっ！流石ですね万丈目先輩！

なら僕は、墓地から「雷帝ザボルグ」と「セイクリッド・ドライヴ」をゲームから除外し、「<sup>ホーリーシャイン・ソウル</sup>神聖なる魂」を特殊召喚します！

バトル！「<sup>ホーリーシャイン・ソウル</sup>神聖なる魂」で万丈目先輩にダイレクトアタック！  
ホーリーシャイン・ジャツジメント！」

「ぐっううっ！」

4000 2000



は特殊召喚できない。

1ターンに1度、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊することができる。

この効果を発動する場合、このターンこのカード以外のモンスターは攻撃宣言を行うことができない。

「『ボルテック・アームド・ドラゴン』の効果発動！  
相手フィールド上のモンスターを全て破壊する！」

「ぐっつっ！！くっつ…！！」

まだまだだ…！！僕は負けない！

**第五話 VS万丈目！激誕、『ボルテック・アームド・ドラゴン』！（後書き）**

前回、前々回と書き忘れてましたがオリカを募集しています。

光属性、悪魔族、ドラゴン族、天使族の各サポート魔法・畏をお願いいたします。

上記以外のカードでも思いつかれましたら感想にお願いします。

CO2でした。

## 第六話 雷武竜VS光武竜

「ホーリーシャイン・ソウル神聖なる魂」が破壊されてしまった…そして…

「「ボルテック・アームド・ドラゴン」でプレイヤーにダイレクトアタック!

アームド・サンダー・ヴァニッシャー!!」

「ぐっ…!ぐああっ!!」

ソリットヴィジョンであるにもかかわらず、アームドドラゴン…いや、ボルテック・アームド・ドラゴンの、雷を纏った拳圧に思わず腰が抜けてしまう。

結構格好悪いかな…

4000 1000

「さあどうだ真田、お前のライフはまだ1000も残っているぞ!お前にここから逆転できる力があるかどうか、俺に見せてみる!」

やっぱり初期の万丈目とは違う…昔の彼ならこう言っただろう、  
「お前のライフはもう1000しかないぞ」と。

万丈目先輩も、アカデミアで色々な事を経験し、成長した。

僕はどうだろう…転生した理由を見つけない事もできず、ただただ無難な毎日を過ごす…  
こんなんじゃない駄目だ。  
なら僕も変わらなきゃ…！

「分かりました万丈目先輩！  
ここからは僕のステージです！」

「フン。カードを1枚セットしてターンエンドだ！」

「僕のターン、ドロー！」

…手札から「異次元からの埋葬」を発動。お互いの除外されているモンスターを3体まで選択して墓地へ戻す。僕は「セイクリッド・ドライヴ」を墓地へ戻す！

これで僕の墓地にいる光属性モンスターは「セイクリッド・ドライヴ」、ホリーシャイン・ソウル「神聖なる魂」の2体のみ！

僕は手札から、「ライト・アームド・ドラゴン」を特殊召喚！」

『ライト・アームド・ドラゴン』

星7 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻2800 / 守1000

効果

このカードは通常召喚できない。自分の墓地に存在する光属性モンスターが2体の場合のみ特殊召喚する事ができる。自分のメインフェイズ時に自分の墓地に存在する光属性モンスター1体をデッキに戻す事で、フィールド上に存在するカード1枚を選択してゲームから除外する。

「「ライト・アームド・ドラゴン」…だと!？」

「ええ、「ライト・アームド・ドラゴン」です。」

「だがそのモンスターの姿は「Lv7」の姿!」「Lv7」よりもレベルの高い「ボルテック・アームド・ドラゴン」が負けるはずはない!」

『グオオオオオオ!?!?!?!』

万丈目先輩の声と共に「ボルテック・アームド・ドラゴン」が雄叫びを上げる。

「違いますよ、万丈目先輩!このカードはただの「アームド・ドラゴン」ではありません!聖なる光の洗礼を受けた正しき光の使者!「ライト・アームド・ドラゴン」はその1体なんです!」

「聖なる光の洗礼を受けた正しき光の使者達…それがお前のデッキか!」

「そうです！そしてこのカードでフィニッシュです、「ライト・アームド・ドラゴン」の効果発動！

墓地に存在する光属性モンスター1体をデッキに戻すことで、相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊します！」

「何！？」

「「セイクリッド・ドライブ」をデッキに戻し、「ボルテック・アームド・ドラゴン」を破壊！」

『グオオオオオオオ！！！！！！！！！！』

「ボルテック・アームド・ドラゴン」、通称「ボムド」が悲鳴を上げ破壊された。

「そして「ホリィシャインソウル神聖なる魂」をデッキに戻し、万丈目先輩の伏せカードを破壊します！」

「ただではやらせん！トラップ罠発動、「ボルテック・サンダー」！  
「アームド・ドラゴン」と名のついたモンスターが1体でも除外されている場合に発動する事ができる。ライフを半分払い、自分の墓地に存在する「ボルテック・アームド・ドラゴン」を召喚条件を無視して特殊召喚する！」



して破壊します!」

1000 500

さっき復活した「ボルテック・アームド・ドラゴン」が破壊された。  
ごめんよ、アームド・ドラゴン。

「くっ…俺の負けか…」

「…いきます、」ライト・アームド・ドラゴン「でダイレクトアタ  
ック!

セイクリッド・ヴァニッシャー!」

「ぐ、ぐあああああああ……!……!……!」

1000 0

「ぶっ…。」

今回も何とか勝てた…。結構ギリギリだけどね、でもやっぱり勝て  
たらうれしいなあ

「俺の負けだな、真田。」

「でもギリギリでしたよ」

「フン…。次は負けんぞ」

「フフ…さあ、行きましょつか」



## 第六話 雷武竜VS光武竜（後書き）

引き続き、オリカを募集しているんですが…今のところ、感想がゼロ件なんですよね…

やっぱり駄作なんでしょうか。

とりあえず、オリカを引き続き募集しております！

もうなんでも良いですから、誰かオリカお願いします！！

第七話 万丈目の回想・オペリスケプルの特異生徒・（前書き）

昨日、「遊戯王」?? EMPEEROR」で初めての感想を貰いました！

凄くうれしかったです！

## 第七話 万丈目の回想・オベリスクブルーの特異生徒・

これは俺、万丈目準がデュエルアカデミアの高等部1年生の時の話だ。

そいつは俺と同級生で、オベリスクブルーに所属していた。  
名は深森握徒。しんもりあくと

そいつはすこぶる変な奴だったが、デュエルは強かった。多分、その時の十代や俺をも超えていただろう。

当時は十代やカイザーなんかが目立っていたが、奴は特に目立つことも無く、当時の俺のように慢心ばかりでエリートぶる事も無かった。

今に思えば理不尽極まりないが、エリートぶらないが故に変人扱いされ、余計に誰も奴には近寄らなかった……デュエルを挑む以外は。

俺もその一人だった。奴にデュエルを挑んだ。

「おい深森」

「…なんだ」

「最近お前はあらゆる生徒にデュエルを挑まれ、勝ち続けているよ  
うだな！」

「……それがどうした」

フン、さぞ気分が良いだろう。だがその余裕の表情も今の内だ。

「進森！俺とデュエルしろ！その余裕の籠った表情をこの俺が潰し  
てやる！」

「……いいだろう」

「デュエル！！」

「デュエル……」

「俺の先攻だ、ドロー！」  
ヘルソルジャー  
地獄戦士を攻撃表示で召喚！  
カードを2枚セットしてターンエンドだ！」

『ヘルソルジャー  
地獄戦士』

効果

星4 / 闇属性 / 戦士族 / 攻1200 / 守1400

このカードが相手モンスターの攻撃によって破壊され墓地へ送られた時、  
この戦闘によって自分が受けた戦闘ダメージを相手ライフにも与える。

万丈目LP4000

モンスター：ヘルソルジャー地獄戦士

魔法・罫：伏せ2枚

手札：3枚

「俺のターン、ドロー。」

…相手プレイヤーにこのカードを見せることでこのカードは裏側守備表示で特殊召喚する事ができる。「じゅていじん樹帝人ガジャガジャロ」を裏側守備表示で特殊召喚。」

『じゅていじん  
樹帝人 ガジャガジャロ』

星5 / 地属性 / 植物族 / 攻1900 / 守1900

効果

このカードはリリース無しで召喚する事ができる。  
また、手札に存在するこのカードを相手プレイヤーに見せることで、このカードは裏側守備表示で特殊召喚する事ができる。

「フン！レベル5のモンスターを態々裏側で出すとはな！  
どうやら今までマグレで勝ってきたようだな！」

「ああ、ずっとマグレで負け無しだ。この学園では負けたことが無い」

なんだと…！？

「くっ…減らず口を…！」

「…ターン続行。」

永続魔法、「悪夢の拷問部屋」を発動、  
更に裏側表示の「樹帝人ガジャガジャロ」をリリースし、「ニードルバンカー」をアドバンス召喚。」

『悪夢の拷問部屋』

永続魔法

相手ライフに戦闘ダメージ以外のダメージを与える度に、相手ライフに300ポイントダメージを与える。

「悪夢の拷問部屋」の効果では、このカードの効果は適用されない。

『ニードルバンカー』

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 機械族 / 攻1700 / 守1700

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターのレベル×500ポイントダメージを相手ライフに与える。

「『ニードルバンカー』で「ヘルソルジャー地獄戦士」を攻撃。アクスアンドニードル」

「馬鹿が！トラップ罠発動！」「リアクティブアーマー炸裂装甲」！攻撃モンスター1体を破壊する  
「！」

『リアクティブアーマー炸裂装甲』

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

その攻撃モンスター1体を破壊する。

「手札から速攻魔法、「老樹の加護」を発動。このターン、自分フィールド上に存在する攻撃力・守備力が同じ数値のモンスターは魔法・罠・効果モンスターの効果を受けない。  
リアクティブアーマー『炸裂装甲』は不発となる。」

『老樹の加護』

速攻魔法

自分フィールド上に攻撃力・守備力が同じ数値のモンスターが存在する場合に発動する事ができる。

このターンのエンドフェイズまで、自分フィールド上に存在する攻撃力・守備力が同じ数値のモンスター1体は魔法・罠・効果モンスターの効果を受けない。

万丈目4000 3500

「ぐっ！だが「ヘルンルジャー地獄戦士」の効果…」

「知っている、相手モンスターに破壊されダメージを受けた時そのダメージを相手にも与える。」

「く…その通りだ、俺と同じ500ポイントのダメージを受けてもらう…」

深森LP4000 3500

「「ニードルバンカー」の効果発動。戦闘でモンスターを破壊した時、破壊したモンスターのレベル×500ポイントのダメージを与える。」

「なに！？ぐあっ！！」

万丈目LP3500 1500

「カードを1枚伏せてターンエンド。」

深森LP3500

モンスター：ニードルバンカー

魔法・罫：悪夢の拷問部屋、伏せ1枚

手札：1枚

「く…俺のターン！！」

手札から魔法カード、「死者蘇生」を発動！

<sup>よみがえ</sup>蘇れ、「<sup>ヘルソルジャー</sup>地獄戦士」！そして「<sup>ヘルソルジャー</sup>地獄戦士」を生け贄に、「<sup>ヘルジェネラル</sup>地獄将軍・

メフィスト」を召喚！」

『<sup>ヘルジェネラル</sup>地獄将軍・メフィスト』

効果

星5/闇属性/悪魔族/攻1800/守1700

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える。

相手に戦闘ダメージを与えた時、相手の手札からカードを1枚ランダムに捨てる。

「バトルだ！」「ヘルジェネラル地獄將軍・メフィスト」で「ニードルバンカー」を攻撃する！」

「セットカード発動、速攻魔法「禁じられた聖杯」。  
選択したモンスターの攻撃力が400ポイントアップする代わりに効果が無効化される。

「ニードルバンカー」を選択。」

ATK1700 2100

「何だと！ぐあっ！」

万丈目LP1500 1200

「く……、小細工ばかり……！」

「……………」

くっそお！！気に入らない！気に入らない！気に入らない！  
こんなヤサ男ごときに苦戦するなど……！！

「……速くしろ。」

「うるさい！！貴様に言われなくても分かっている！！ターンエンドだー！」

「俺のターン、ドロー。…フィニッシュだ、サイクロンを発動。フィールド上の魔法・罠1枚を破壊する。お前のフィールドの伏せカードを破壊。」

伏せていた「魔法の筒」マジックシリンダーが破壊された。

そして「ニードルバンカー」の斧状の尻尾が鋭く光る。

「バトルフェイズ、「ニードルバンカー」でダイレクトアタック。アクスアンドニードル」

「ぐー！ぐあああああああああ！……！！！」

万丈目LP12000

「……………」

デュエルが終わった途端、奴はデュエル場を出て行った。

## 宿屋

「俺は結局手も足も出なかった。完敗だった」

「攻撃力と守備力の数値が同じモンスターを駆るデュエリスト…ですか。」

「変わってるわねえ…。」

「俺とのデュエル以降も深森は当時のカイザーや十代にデュエルを挑みどちらにも勝っている。」

それからしばらくして、まるで飽きたかのように奴はアカデミアを自主退学した……」

恐ろしく強かったんだ……それに「禁じられた聖杯」なんて、GXの時代には無かったはず……

ということはGXの時代に転生した転生者……もしくは未来人……？

「おい真田！聞いているのか!？」

「あ、すみません万丈目先輩っ。少し考え事を……」

「フン、まあいい。そろそろ寝ろ、俺は少しデッキを見ている」

『ふああ……わたしも寝てるわあ……』

「うん。じゃあおやすみなさい二人とも。」

「ああ」

『おやすみなさい』







第七話 万文目の回想・オペリスクブルーの特異生徒・（後書き）

どうでしたか。

結構ハイテンションで書いたので、もしかしたら間違いがあるかもしれない。

一応見直しもしたんですが…

あ、ひきつづきオリカを募集しております！

オリカ案とか無くてもいいので、問題点の指摘などありましたら是非！

罵倒などしてもらって全然構いません！

まあ褒められた方が嬉しいですけどね

第八話 三度目の邂逅（前書き）

今回はデュエルは無しです。

彼女による説明会といったところでしょうか

## 第八話 三度目の邂逅

あれ、この感覚……………そうだ、覚えてる。

これ…藍沙さんとデュエルした時の…。じゃあこの世界も夢の中…？

「起きた…？あ、ううん、この場合は『寝た』だね。」

僕が目を開けると、隣には藍沙さんがちょこんと座っていた。

辺りを見ると、そこはいつか見た真っ白で何も無い世界

となるとやっぱりここは…

「藍沙さん…？」

「遊香君。ここが何処だか分かるかな？」

えっと…これは僕を試してるのかな…

「多分ですけど…、僕の夢の中…ですか？」

「そうだね、それでも正解だけど、あえてここはちょっと違っていて言っとこうかな。」

「どっぴいっことですっ。」

ほんとにどっぴいっ事だろう。僕は僕が寝た後にここに来たはず。ということは僕の夢の中で合っているんじゃないだろうか？

僕は少し目を擦りながら藍沙さんの言葉にに耳を傾ける。

「この場所は、僕が君の脳波…ん〜…レム睡眠って分かるかな？」

「レム睡眠ですか。確か寝てるのに脳は動いてる状態…ですよね。」

「うん、そう。人間が夢を見やすい状態なんだよね。」

僕の夢の中の藍沙さんは何を言わんとしているんだろう。

「君の夢…つまり今僕たちが立っているこの場所は、僕が君をレム睡眠状態にして作り出して見てる夢なの」

「え！？あ、あの、それってつまり…」

「この夢は僕が干渉して君に見せているって事」

驚いた。いや、驚かないわけ無いよ。

僕の睡眠を操作して夢を見せているなんて…っていうか、藍沙さんにそんなことができるなんて。

やっぱり藍沙さんはこの世界の人間じゃないのかな。いや、そうとも限らないか…？  
ん？ならあの時は…

「あの…じゃあ、最初に会った時は…」

「ああ、あの時は流石に直接だよ。それにあの時のデュエルでは僕、【暗黒界】を使ってたでしょ？  
誰に見られるか分からないから、シンクロモンスターやチューナーも使えないし」

あ、そうだった！そのことも聞かなきゃ！  
なんでシンクロモンスターやチューナーを持っているか！

「待つてください、藍沙さんはシン…」

「遊香君の聞こうとしていることは分かるよ。」

“どうしてシンクロモンスターやチューナーを持っているか”でし

よ？」

「あ、はい、そうです。よく分かりましたね」

「ハハ、そんなことちょっと推測すれば分かるよ」

うつ／／／ちよつと可愛いとか思ってしまった／／／  
褒められて機嫌が良くなったとかか…

そういえば藍沙さんって苦手だけど美人だし…スタイルも……／／  
／／／／／／／／  
いやいやいやいやいやいや、何を考えてるんだ僕は！／／  
／／／／／／／

「あ、遊香君エツちなこと考えてたでしょ？」

「どうしてわかったあああああああ！……！！……！！」

「ひゃあ？！つとと、あつはは、流石に顔には出てなかったけど。  
雰囲気で分かったよ？」

「うつ／／／……／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／」

「あはは、遊香君可愛い」

「う…／＼／＼／＼は、話を戻しましょうよ！」

凄く恥ずかしい…やっぱり女の子って苦手だ。

「あはは、そうだね。わかったよ。

じゃあ問題。僕は遊香君の夢に干渉してるけど、何処からでしょう？」

ええと…何処から干渉してるでしょうか。

多分、自宅…？うん、でもそんな簡単じゃないだろうし…

「うん…僕たちが泊まっている宿屋とかですか？」

「ぶっぶっ、不正解」

ありゃりゃ、違ったか

「残念だね、正解できたらご褒美あげたのにな」



「あ、えっと、つまり、藍沙さんはこの世界と現実世界を自由に行き来することができて、現実世界から直接この世界に干渉できると言うことですか？」

「うん、ほぼその通りだよ。」

「だからシンクロモンスターやチューナーを持つてるのか…」

「うん。ちなみに僕の使っている【時空塔】シリーズは友達に作ってもらったアイデアを僕がカード化した物なの。」

「なるほど…通りでチートなわけだ。」

でも藍沙さんにそんな事ができるのに、何で僕はこの世界に…？」

「うん。今回、君の夢に干渉した理由はそれだよ。」

それ？それってつまり…

「遊香君がこの世界。つまりこの“知識から外れた世界”にどうして転生してきたのか。」

それを君に伝えに来たの。」

「…知識から…外れた世界…」

知識から外れた世界か…確かにこの世界はGXから後の…言わば後日談の世界。そしてGXの後日談なんてものは現実世界では放送されていない。

つまり“知識から外れた世界”ってわけだ。

「うん。」

もともとこの世界には、既にGXの時代…私の言う“知識の中の世界”には、既に転生者が居たの。」

「そうだったんですか…」

「でも、彼はその役目を放棄してしまった。」

「放棄…？放棄っていったい…。それに役目って…」

「役目ってというのは僕には分からないの。  
放棄ってというのは…彼がデュエルアカデミアを自主退学してしまったこと。」

自主退学！？それってもしかして…

「あの…その彼の名前は…」

「深森っていう人。深森握徒っていうの」

やっぱり。

深森握徒…当時の万丈目先輩や十代先輩、カイザーまでも倒した男。深森が現実世界からの転生者なら、彼の無敗も合点がいく…。

「遊香君…？」

「あ、すみません。考え事してました。」

「君、もしかして深森握徒のこと知ってるの？」

「あ、はい…実は…」

僕は藍沙さんに万丈目先輩が深森とデュエルをして敗北したこと、カイザー亮や十代先輩ともデュエルで勝っていたこと、それらを万丈目先輩に聞いたという事を話した。

「そうなんだ…。デュエルで勝つのは良いとして、辞めることないのね」

「確かにそう思いますね。」

確かにその通りだ。転生したってことは何か意味があるはずなのに…。

「うん。」

「でもつまらなかったのかも…」

「つまらなかった…?」

つまらなかったって、GXの時代の事だろうか  
対戦したGXのメインキャラが全員、自分より弱かったから…?

「……………あ、そろそろ目覚める頃かな。」

「え?」

徐々に辺りが輝き始め、僕や藍沙さんの体も輝きだす。

「最後に…遊香君、君には使命がある。」

「使命…ですか?」

僕に使命…そうだよ、それを探してたんだ僕は。

「でもその使命は僕にも分かんない。  
けど安心して。僕が全力を注いで遊香をサポートするからね



「真田起きろ。真田！」

「ん…」

## 第八話 三度目の邂逅（後書き）

藍沙さん、難しい人です。

あ、次回からは視点式でいきます。

「視点：藍沙」みたいな表記でいきます。

藍沙視点は若干難しいですけどね。

ではこれも新たな試みです。次回予告！

決意を新たに再び十代を搜索する遊香たち。

前へと進みだした少年をよそに、

ついに敵が動き出す！

次回、「蟲龍の眼光」

少年は彼女にどう立ち向かうのか…

第九話 蟲龍の眼光（前書き）

少し卑猥な表現があるのでご注意ください

第九話 蟲龍の眼光

視点：遊香

「真田起きろ。真田！」

「ん…まんだいじゆうめせんだいほごばんじょーくくんばい…？」

朝かあ…。よつーらせ！

「出発するぞ真田」

「分かりました。」

十代先輩が拠点としている場所は街から数キロの場所にあるらしい。  
…そう言えばパラドックスとは戦った後なのかな。  
僕、あの映画見てないからなあ…

「真田、この方向で合っているのか。」

「あ、はい。この方向で10キロほど歩けば十代先輩が居ます。確  
実ではないですが…」

「まあ、十代だからな。今頃、誰かとデュエルでもしてるかもしれ  
ん」

「そうなんですか…。ん、でも車くらい用意すればよかったかも  
しれませんね。」

「ああ…」

あはは、テンション低いや。  
やっぱ暑いのかな。

「ん、なんだ…？」

「万丈目先輩……?どうしました?」

「……いや、気のせいだった。誰かに見られているような気がしたんだが」

うん、きっと気のせいだろう。

ここは砂漠だ、誰もばれないように隠れるなんてできない。できるとしても砂に擬態するくらいだね

「そうですね。気のせいだと思いますよ」

「ああ……」

「ゴク……ゴク……ぷは……」

『水、あんまり飲みすぎない方が良くないわよ?』

「分かってるよベルク。心配してくれてありがとね」

『ええ』

視点：？？？

ふう…見つかるかと思っただわね。  
いずれこっちから出向かわなきゃならないのだけど

「助かったわリンザ。」

『このくらい私にかければお安い御用よ。』

『しかし案外、遊香って奴はヒョロヒョロしてやがるぜ。』

この二人はわたしに付いてるカードの精霊。  
上から順に「砂妃蟲龍すなきのみりゅう リンザ」、  
「狂蟲龍きょうむりゅう フォマルリク」よ。私  
の大事な仲間。

『あ…？どうしたラルア』

『少し疲れたかしら？』

「心配してくれてありがとう、特に問題はないわ。少し考え事をしていただけよ。」

二人とも地味に鋭いわね。

表情を読むことに長けているのかもしれないわ。ちなみに二人とも龍なんて名前は付いてるけど、人間の姿をしている。

良くあるご都合主義と似たようなものよね……違うかしら……？

そして私、ラルア・ファンリバルはこの子達を所持するデュエリスト。

今はとある組織に雇われて、遊香って子と「その他」を尾行中。さつき少し「その他」に気付かれ掛けたけど、危なかったわ。

リンザが砂を操って隠れ蓑を作ってくれなきゃ「その他」に見つかっちゃってたわね。

『また移動し始めたわね、追いましょう。』

『ハッ、案外こういうのも悪くねえかもな。』

「あんまり暴走しちゃ駄目よ。」

『分かってるっての。るっせえな…』

視点：遊香

僕に使命か…。

僕の使命…もしかしたらそれって、深森握徒の放棄した使命を受け  
継ぐこと…？

僕に出来るんだろうか。僕にそんな力が…。

でもまあ良いか。

気にし過ぎて袋小路になるのは避けたいし

「しかし十代の奴、何故わざわざこんな場所に来たんだ？」

「ああ、それは僕も考えました。

この砂漠地帯に何かあるわけでもない。

せいぜい遺跡くらいですし」

「遺跡だと…?」

「ええ、まあよく聞くような遺跡ですよ。  
ピラミッド然り、マヤ遺跡然り。」

「そういったものがこの遺跡にもあるということか」

「ええ。」

今の万丈目先輩は物分かりがいいから助かる。  
GXの時代だったらこうはいかないかもね。

ただでさえGXでは人の話を全く聞かないし、聞いたとしても自分に都合の良い受け取り方しかしないし

「む、今何か失礼な事を考えなかったか?」

「え、いや、そんなことはないですよ」

おまけに変にに鋭い。

「はあ…もしかしたら、十代先輩の目的はその遺跡かもしれないですね。」

「ふむ…。その遺跡は何の遺跡なのだ？」

ん？何の遺跡って言われてもなあ…

「ええっと、詳細はあまり知られていないようです。

ただ、何か文明が存在した痕跡があつて、

それがおよそ1万6千年前の物ではないかといわれています」

「1万6千年だと!？」

いちいちオーバーリアクションなのはアニメ仕様である証拠かな。元々は現実世界の住人である僕には少し…いや、かなり変だ。まあ、僕もこの19年、この世界で生きてきているから流石に染まってしまったけど。はあ……

「まあ…そう驚かないで下さい。

そんな遺跡なんて世界中にいくらでもありますから。」

「むう、確かにな」

「ソフフ、そうね。」

確かにあれは有りがちでよく聞くような遺跡かも知れないわ」

「えっ？」

「ッ、誰だ貴様！どこから現れたのだ！？」

前触れもなく突然、目の前に紫の髪的女性が現れた。

僕よりも年上：大体25、6歳くらいだろうか。

万丈目先輩の言うとおり、ホントにどこから現れたんだ…？

ここは砂漠一面の場所。隠れる場所なんてないはず。

「ふふ、考えてるわね。」

そうね、じっくり考えなさい。

でもその暇はあまりないかもしれないわよ？」

彼女が言い終わるが速いか否か、砂漠一面だった景色が赤紫を基調色とした景色に変わっていく。

まるで絵の具を塗りたくるように。

空には何種類もの蟲が飛んでいる。蜂、蝶、蛾、甲虫、蝉、害虫全般。ゴキブリなんてのもいる。

うっ…気持ち悪い、やっぱり虫は嫌いだ…

「さあ、分かるわね？」

「私がこれから何をしたいか……」

「デュ、デュエル……ですか」

「……ならば俺とデュエルしろ女！」

「万丈目先輩……？」

しばらく彼女の話の話を黙って聞いていた万丈目先輩。  
「ただデュエルと聞いては万丈目先輩でも黙っていられないのだからか。でも……」

「貴方と……？」

「わたし「その他」には興味ないのだけれど？」

「く……！知らん！黙って俺とデュエルしろ！」

「フフ、仕方ないわね。良いわよ」

「ただし、つまらないデュエルは許さないわ。」

「戯言を！叩き潰してくれろ！」

僕のこと半無視し、デュエルディスクを構える二人。

万丈目先輩はアカデミアで支給されていた僕も持っているディスクを、

対する女性は虫の甲殻…？をモチーフとしたようなディスクだ。

「デュエル！」

「俺の先攻、ドロー！」

…俺は手札から「暗黒界の取引」を発動！

お互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドロー。その後、手札を1枚捨てる。

そしてこの効果で捨てられた「おジャマジック」の効果が発動！

デッキから「おジャマ・グリーン」、「おジャマ・イエロー」、「

おジャマ・ブラック」を手札に加える！」

『暗黒界の取引』

通常魔法

お互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローし、その後手札を1枚選択して捨てる。

『おジャマジック』

通常魔法

このカードが手札またはフィールド上から墓地へ送られた時、自分

のデッキから「おジャマ・グリーン」「おジャマ・イエロー」「おジャマ・ブラック」を1体ずつ手札に加える。

「そして、「おジャマ・レッド」を守備表示で召喚！

「おジャマ・レッド」の効果により、さっき手札に加えた「おジャマ・グリーン」「おジャマ・イエロー」「おジャマ・ブラック」を攻撃表示で特殊召喚！」

『おジャマ・レッド』

効果

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻0 / 守1000

このカードが召喚に成功した時、手札から「おジャマ」と名のついたモンスターを4体まで自分フィールド上に攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

『おジャマ・グリーン』

通常

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻0 / 守1000

あらゆる手段を使ってジャマをすると言われているおジャマトリオの一員。

三人揃うと何かが起こると言われている。

『おジャマ・イエロー』

通常

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻0 / 守1000

あらゆる手段を使ってジャマをすると言われているおジャマトリオ

の一員。

三人揃うと何かが起こると言われている。

『おジャマ・ブラック』

通常

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻0 / 守1000

あらゆる手段を使ってジャマをされると言われているおジャマトリオの一員。

三人揃うと何かが起こると言われている。

凄い、最初からあれだけそろえるなんて流石メインキャラというか何というか。

「カードを2枚セットし、ターンエンドだ!」

万丈目LP4000

モンスター：おジャマ・レッド / 守1000

おジャマ・イエロー / 攻0

おジャマ・グリーン / 攻0

おジャマ・ブラック / 攻0

魔法・罫：伏せ2枚

手札：2枚

少し危ういかな…?

あ、でも伏せカードが2枚ということは攻撃を誘ってる…?

「フフ…私のターンドロー。」

手札から、「蟲龍の犯行」を発動。

「蟲龍」と名の付いたモンスターを1体手札に加える。

私は「狂蟲龍フォーマルリク」を手札に加えるわ。」

『 蟲龍の犯行』

通常魔法

デッキから「蟲龍」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

「そして「砂妃蟲龍 リンザ」を召喚、攻撃表示よ。」

『 ンフフ…』

『 砂妃蟲龍 リンザ』

星4/地属性/昆虫族/攻1700/守1400

効果

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する場合に「蟲龍」と名のついたモンスターが特殊召喚したデッキからカードを1枚ドロウする。

このカードが相手によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから攻撃力1800以下の「蟲龍」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

人間の姿…？

虫を使役する能力を持っているって事だろうか…。

姿は女。あの女性とは違った大人の雰囲気を持つてるけど………  
やっぱりカードの精霊だね。

僕の知っている女性で精神的に順位をつけると、上から「砂妃すなきさ  
蟲龍きじゆう リンザ」、今デュエルしてる相手の女性、藍沙さん、「ベル  
ク」って感じが。

って何考えてるんだらう僕。

『何で私が最下位なの！？』

やば、口に出てた。

「そして自身の効果によりライフを1000払うことで」きんじゆう 狂蟲龍  
「フォーマルリク」を特殊召喚するわ。」

LP4000 3000

『ハッ…楽しませてもらうぜその他ア！』

「その他と言っちなー！」

『狂蟲龍 フォマルリク』

星7 / 闇属性 / 昆虫族 / 攻2600 / 守2000

効果

自分フィールド上に「砂妃蟲龍 すなきさきりゆう リンザ」が存在する場合、ライフを1000払い、このカードを手札から特殊召喚することができる。  
1ターンに1度、自分フィールド上に存在する「妃蟲龍 きみきりゆう」と名のついたモンスター1体に卵液カウンターを一個乗せる事ができる。

刀身の太い剣を持った金髪の男性が現れる。

あれも精霊か…。

見た目的に…というか見るからに戦闘狂という感じ。

僕、ああいう人ほど中がいい。

転生する前も高校の不良なんかからよく守ってくれる人が居たけど、その人の雰囲気があんな感じだった。

「「リンザ」の効果、「蟲龍 きりゆう」と名のついたモンスターが特殊召喚する度にカードを1枚ドローできる。  
ドロー。」

そして「フォーマルリク」の1ターンに1度の効果により、「リンザ」に卵液カウンターを乗せるわ。」

『おらっ…』

『ひゃん』

うわあ〜じゅ、18禁だあ〜。いや、15禁くらいか？  
だとしても緑色の液体が「砂妃蟲龍<sup>すなきなきりゅう</sup>」リンザ」にかかっただけだし。  
……………といってもやっぱり卑猥<sup>ひわい</sup>だけど……………

「バトル、「フォーマルリク」で「おジャマ・ブラック」を攻撃よ。」

『いくぜえ!?!』

『ぎゃー!蹴らないでくたせえ!』

万丈目LP4000 1400

134

まずい、大ダメージが…。  
あの伏せカードの2枚はブラフだったんだろうか？

「くつ、戦闘ダメージを受けたことで畏<sup>トラック</sup>発動!「ダメージ・コンデ  
ンサー」!

手札を1枚捨て、その時に受けたダメージよりも攻撃力の低いモン  
スターをデッキから特殊召喚する!

俺はデッキから、「おジャマ・ホワイト」を特殊召喚!」

『ダメージ・コンデンサー』

通常畏

自分が戦闘ダメージを受けた時、手札を1枚捨てて発動する事ができる。

その時に受けたダメージの数値以下の攻撃力を持つモンスター1体をデッキから攻撃表示で特殊召喚する。

『おジャマ・ホワイト』

星2 / 光属性 / 獣族 / 攻0 / 守1000

効果

このカードは1ターンに1度だけ戦闘では破壊されない。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在するこのカード以外の「おジャマ」と名のついたモンスターを攻撃対象に選択する事ができない。

『ティヤー！ホワイト推参〜！』

「おジャマ・ホワイト」……か  
やっぱり藍沙さんの言う通りここは“知識から外れた世界”なんだな。

現実にある既存のカテゴリでもこの世界にしか普及していないカードがある。

おまけにあのカードにも精霊が宿っている。

「このカードは戦闘では破壊されず、このカード以外の「おジャマ」を攻撃対象に選択できない！」

「そ…。ならカードを1枚伏せてターンエンドよ」

女性デュエリストLP4000

モンスター：砂妃蟲龍すなきさきりゅう リンザ/攻1700（卵液カウンター×1）

狂蟲龍きょうちゅうりゅう フォマルリク/攻2600

魔法・罨：伏せ2枚

手札：3枚

「ふん、破廉恥なカードばかり使いよって…

俺のターン、ドロー！

強欲な壺を発動！カードを2枚ドローする！

：手札より「思い出のブランコ」を発動！墓地の通常モンスターを蘇生する！

ただしこの効果で蘇生したモンスターはエンドフェイズに破壊される。

墓地より「おジャマ・ブラック」を蘇生！」

『よっしゃー！復活だー！』

『思い出のブランコ』

通常魔法

自分の墓地に存在する通常モンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時に破壊される。

「そして魔法カード、「おジャマ・デルタハリケーン!!」を発動！  
俺の場に「おジャマ・グリーン」「おジャマ・イエロー」「おジャ  
マ・ブラック」が存在する場合に発動できる！  
相手フィールド上に存在するカードを全て破壊する！」

『いつくわよお〜!!』

『おっしゃー!』

『いくぜ〜!!』

黄色、黒、緑のおジャマが密着、お互いの両手を繋いで三角形にな  
る。

その後回転し始め、やがて竜巻が巻き起こる。

三体のおジャマが協力して竜巻を起こす。

それはまさしく「おジャマ・デルタハリケーン!!」。

そしてその竜巻は敵のフィールドを破壊していく。

『ぐおおおっ!!』

『ぐっ、きゃあああ!!』

「……………」  
「リンザ」のモンスター効果発動よ、相手によって破壊  
された時、攻撃力1800以下の「蟲龍」をデッキから特殊召喚す  
るわ。

「海妃蟲龍 エリア」を特殊召喚するわ」

『よくもリンザを…、許さないんだから!』

「砂妃蟲龍<sup>すななきむしりゅう</sup> リンザ」の残した影から青い短髪の少女、「海妃蟲龍<sup>うみなきむしりゅう</sup> エリア」が現れる。

名前は似てるけど多分「リチュア・エリアル」や「水霊使いエリア」とは関係ない………はず。

「ならば「融合<sup>ゆうごう</sup>」を発動!

フィールド上の「おジャマ・ブラック」、「おジャマ・ホワイト」を融合!

来い、「おジャマ・ヴァルキリー」!

『ふっ…、はああ!』

「おジャマ・ホワイト」が少し成長し、西洋風の女性用の鎧を着た「おジャマ・ヴァルキリー」が融合召喚された。

右腕には盾を、左腕には刺突剣：いわゆるレイピアを装備している。どうやら左利きのようだ。

『おジャマ・ヴァルキリー』

星4 / 光属性 / 獣族 / 攻0 / 守2200

融合・効果

「おジャマ・ホワイト」+「おジャマ」と名のついたモンスター1体

このカードがフィールド上に存在する限り、相手のモンスターカードゾーン1ヶ所を使用不可能にする。

このカードは1ターンに2度まで戦闘またはカードの効果では破壊されない。

「更に伏せていた「融合回収」を発動！

墓地の「おジャマ・ブラック」、「融合」を手札に戻す。

そして「融合」！フィールドの「おジャマ・イエロー」、「おジャマ・グリーン」、手札の「おジャマブラック」を融合する！来い、

「おジャマ・キング」！」

『フュージョン・リカバリー  
融合回収』

通常魔法

自分の墓地に存在する「融合」魔法カード1枚と、融合に使用した融合素材モンスター1体を手札に加える。

『おジャマ・キング』

星6 / 光属性 / 獣族 / 攻0 / 守3000

融合・効果

「おジャマ・グリーン」+「おジャマ・イエロー」+「おジャマ・ブラック」

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手のモンスターカードゾーンを3カ所まで使用不可能にする。

「これで決める！

フィールド魔法、「おジャマ・カントリー」を発動！

フィールド上の全ての「おジャマ」は攻撃力と守備力の数値を入れ替える！」

おジャマ・レッド / 攻0 1000

おジャマ・ヴァルキリー / 攻0 2200

おジャマ・キング / 攻0 3000

な、なんて爆発力だろう。

現実世界ならまだしも、この世界の「おジャマ」はかなり強い……  
そうでなくてもモンスターカードゾーンを4ヶ所も封じている。

140

「いくぞ、「おジャマ・ヴァルキリー」で「海妃蟲龍 エリア」を攻撃！」

「リバースカード発動、「攻撃の無力化」

攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了するわ。」

「チツ…ターンエンドだ。」

万丈目LP1400

モンスター：おジャマ・レッド／攻1000

おジャマ・ヴァルキリー／攻2200

おジャマ・キング／攻3000

魔法・罾：0枚

手札：0枚

フィールド魔法：おジャマ・カントリー

まずい…。今、万丈目先輩のフィールドにはモンスターだけ。

破壊耐性を持つのも「おジャマ・ヴァルキリー」のみ

もし破壊されなくても「おジャマ・レッド」に攻撃を集中されたら…

「……………私のターン、ドロー。」

「海妃蟲龍 エリア」をリリースする事でデッキから「瞬妃蟲龍

エリイ」を特殊召喚するわ。」

『瞬妃蟲龍 エリイ』

星6 / 風属性 / 昆虫族 / 攻2200 / 守1500

効果

このカードはカードの効果によっては破壊されない。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した時、デッキからフィールド魔法以外の「卵液」または「蟲」と名のついた魔法・罾カード1枚を手札に加える事ができる。

『はあぁっ！！』

「……!!」

リリース……。

そうか……あの人も現実世界から来たんだ……

「魔法カード、「死者蘇生」。

チェインして「リビングデッドの呼び声」を発動するわ。

「死者蘇生」は「エリア」を選択、「リビングデッドの呼び声」は

「リンザ」を選択」よ。

蘇生した二人をリリースして、「天蟲龍 フォンス」をアドバンス

召喚。」

『……いくぞ、ラルア』

「ええ……」

『天蟲龍 フォンス』

星8 / 光属性 / 昆虫族 / 攻2900 / 守2200

効果

1ターンの1度、フィールド上に存在する「蟲龍」と名のついたモンスターの数まで、自分フィールド上に存在する「妃蟲龍」と名のついたモンスターに卵液カウンターを乗せる事ができる。

自分フィールド上に「艶妃蟲龍 アリシャ」が存在する場合、このカードは1ターンの1度だけ戦闘またはカードの効果では破壊されない。

「アドバンス召喚…だと？」

「生け贄召喚のことよ…。」

バトル、「瞬妃蟲龍<sup>しゅんきさなぎりゅう</sup> エリイ」で「おジャマ・ヴァルキリー」を攻撃よ。

マツハ・ヴァンクイツシュ！

『いけえええ！！』

『きゃああ！！』

万丈目LP1400 1200

「ぐうづつ！！」

くっ…実際のダメージだと…?!」

「なんですって!?!まさか、サイコデュエリストだっていうのか!」  
「?」

「ええ、その通りよ。」

とどめね、「天蟲龍<sup>てんきりゅう</sup> フォンス」、  
「おジャマ・レッド」を攻撃よ。

ヴィアंकシャス・アーデル!!」

『ぎゃああああ!!』

「うーぐうっ!!があああ!!!!!!」

万丈目LP12000

「……!!万丈目先輩いつ!!!!!!」

シューウウウウウウウウ……

「天蟲籠てんきりゆう フォンス」の攻撃により、万丈目先輩の周囲に煙が立ち込める。

やがて煙は晴れるが、さっきまで万丈目先輩が立っていた場所に彼はいなかった。

気づけば景色も元の砂漠一面。あいつもない……

「あ、あいつは……!!?万丈目先輩は……!!?いつたい……どこに……!!」

それからしばらく、僕は万丈目先輩を探し続けた……





## キャラクター説明 第二弾！

さて！今回はキャラクター説明会、第二弾です！

「前は僕とベルクだけだったからね」

『そうねえ…あの時は結構下手だったし』

何がです？

『この小説の事よ。それ以外に何かあるというの？』

あはは、それは否認しませんね。

「確かニコニコ百科のSS用語一覧を見て台本形式をやめたんだよね。台詞の横にキャラの名前が入ってるやつ」

あはは、あのサイトはなかなか便利ですよ？

『感化されやすいわね』

うっ(・・・)  
ま、まあキャラ説行ってみよう！

「逸らしたね」

『逸らしたわね』

くはっ！！

笹木藍沙<sup>ささきあいの</sup>

> i 3 3 2 7 2 — 4 2 1 7 <

性別：女

年齢：不明

イメージCV：花澤香菜

遊香を自らの作り出した空間に連れ込みデュエルをしたり、遊香に情報を提供していた謎の少女。

現実世界から遊香のいる世界、彼女曰く“知識から外れた世界”に干渉したり、行き来することができる。

飄々とした雰囲気を持つが、少し褒められただけで機嫌が良くなる、ある意味扱いやすい女の子。

普段は比較的冷静だが、デュエル中は判断力はともかく、性格がある程度変わる。

使用するデッキは【暗黒界】【時空塔】。メインデッキは【時空塔】である。

まんじょうめしゅん

万丈目準

性別：男

年齢：22歳

CV：松野太紀

デュエルアカデミア卒業後、即座にプロデュエリストになる。

三年後遊香と出会い、現在は活動を休止中。

当然ながらGX時の様な慢心エリート気取りの性格では無くなっており、軽いツンデレの様な状態。

しかし稀にだが、そう思っていないくとも相手を見下す態度を取ってしまう事がある。彼の悪い癖も5、6年程度では直らないようだ。

使用デッキはGX時よりも強化された【アームド・ドラゴン】と【おジャマ】。

しんもりあくと  
深森握徒

性別：男

年齢：恐らく21〜22歳

イメージCV：宮野真守

デュエルアカデミアで万丈目や十代等と同級生だった謎の多い青年で、転生者でもある。

デュエルでは十代や万丈目を圧倒、当時は学園のトップだったカイザールをも倒している。

それについて遊香は、転生者ならそれも難しくはないだろうと推測している。

使用デッキは攻撃力と守備力が同じ数値のモンスターや、それらをサポートするカードで構成されているデッキを使用することが確認されているが、詳細は不明。

ラルア・ファンリバル

性別：女

年齢：25歳前後

イメージCV：田中理恵

デュエルで万丈目を圧倒した女性サイコデュエリスト。

性格は比較的温厚だが、自軍のモンスターが除去などされると性格は一変し冷酷な物となる。

また、「リリース」や「アドバンス召喚」等の5D's放送時から採用された用語を使っていた事から現実の人間か未来からの人間と推測できる。

使用デッキは昆虫族を主体とした【蟲龍】。男性の姿をしたものは「蟲龍」、女性の姿をしたものは「妃蟲龍」と名が付く。モンスターのはほとんどにはカードの精霊が宿っており、前途の性格が変わる理由はそのためである。

というわけで、今回は謎の少女「笹木藍沙」ちゃん、現在の「万丈目準」、謎の青年「深森握徒」、前回登場した女性デュエリスト、「ラルア・ファンリバル」についてのキャラ説でした。

「藍沙さんが扱いやすいなんてとんでもないよ!」

『遊香は苦手なだけでしょ?』

「いやあ……まあそうだけど……／＼／＼／」

『チツ……………』

な、なんか色々起きてますがこれにてキャラクター説明会 第二  
弾！を終了いたします。

お忘れ物の無いようにお帰り下さい。

それでは！（……）ノシ

## キャラクター説明 第二弾！（後書き）

次回予告行きます。

万丈目の消失。

それは少年にとって非常に不安なものであった。  
それが故、少年は彼を探し出そうとする。

次回、「神殿を守る守護兵」  
生ける者こそ弱きなり…

第十話 神殿を守る守護兵（前書き）

誤字、脱字、その他の間違いがあれば指摘お願いします。  
今回はあまり自身がないので……

## 第十話 神殿を守る守護兵

遺跡、入り口付近

視点：遊香

「はあ…はあ…」

あれから大急ぎで遺跡まで来た。

あの女性、ラルア・ファンリバルとのデュエルで万丈目先輩が消失…生きているかもわからない…。

こうなったら十代先輩が頼りである。

十代先輩なら…“主人公遊城十代”なら、きっと万丈目先輩を救えるはず…

「大きいし…はあ…はあ…広そうだなあ…はあ…はあ…」

『みつけるには苦労しそうね…』

「うん…。はあ…はあ…けど、ちょっと…、休憩させて…」

『まったく、飛ばし過ぎよ?』

ホント、ベルクの言う通りだ。

いくら万丈目先輩がさらわれたからって、焦れば彼女の、ラルア・ファンリバルの思う壺じゃないか。

それにこんなに急いで来たのに、ここに十代先輩が居なかったら無意味だ。

僕は駄目だなあ……

「ふう……そろそろ行く。十代先輩はこの中にいるはずだ。」

『ええ。でも無理はしないでね』

「わかってるわ……」

何かしかけがあるかもしれないとは思ったものの、遺跡内部へ入り口から入った。

案の定あったけど、ベルクのおかげで何とか潜り抜けられた。

そして大広間らしき場所に出ただけ……

ガガガガガガガガガガキン！！

『え！？』

「入り口が！？」

そう、閉じ込められてしまった。

大広間の中心辺りまで来たと同時に遺跡の入り口が岩のシャッターで塞がってしまった。

あ、そうだ。ベルクならアレを抜けられるかも…

「ベルク。」

『ふえ？』

「あの岩のシャッター、ベルクならすり抜けられるんじゃない？」

『あ、そっか。そうよね私カードの精霊だもんね。や、やってみるわ。』

と言ってるベルクだけど、少し…いや、かなり心配だ。凄く勢いをつけようとしている。

無理だったらどうなると思ってんのベルクさん？

『い、いくわよ。背、せーのっ！』

ガン！

『あひゃ！！…？』

『ふええええええええええ…(@)(@)O』

言わんこつちや無い。いや、言ってないけど。  
まあいいや、ベルクをカードに戻してっど。

『コトトリ……バ、でい……デワ……タオ……ミセ……』

「え…？」

大広間の奥から変な声…テレビの報道番組等でよく聞く合成音声の様な声が聞こえてきた。

不審に思ったが聞こえにくかったので声のする方に近づいてみる。

『コ…ヲ…オ…タクバ、でいあは…ワレヲ……シテミ……ヨ…』

ディアハ…ディアハって確か、エジプトにおけるデュエルのことだよね

石像は何度も同じ言葉を繰り返しているようだ。

そして石像が何度かその言葉を発するにつれ、次第に鮮明に聞こえてきた。

『ココヲ通りタクバ…、でいあはデ我ヲ倒シテ見セヨ…』

この場所を守る番兵って事が、これは。

この番兵を倒すと先に進むことができるって事だね…。

入り口が塞がってしまった以上、奥に進むしかない。よし……

「ああ、わかった。デュエルする」

ウウイイイイイン…

「うわあ?!」

『でいあはヲハジメル……。位置へ付ケ……。』

せ、石像が動き出した!?

ま、まあでもデュエルができるようにしてるだろうから当然か。

それにしてもこの石像、よく見れば5D'sのアニメで「月影龍クイラ」のダークシンクロ素材となった「泣き神の石像」にそっくりだ。

つて事はこの石像が使うデッキは【インティ&クイラ】?

どっちにしても油断ならない、デッキは【光属性】がいいか。

「よし…デュエル!」

『でいあは!……ソナタノ先攻ダ……』

「わかった……僕のターン、ドロー!

……「切り込み天使<sup>エンジェル</sup>」を召喚!

「切り込み天使」の効果で、自分の手札からレベル4以下の天使族1体を特殊召喚する。

僕は「ウイクトリア」を特殊召喚!

更に自分フィールド上に光属性が2体以上存在する場合、このカードを特殊召喚する事ができる。

「ガーディアン・オブ・オーダー」を特殊召喚!

…カードを1枚セットして、ターンエンド。」

『切り込み天使』エンジェル

星3 / 光属性 / 天使族 / 攻1000 / 守400

効果

このカードが召喚に成功した時、手札からレベル4以下の天使族モンスター1体を特殊召喚することができる。

『ウイクトーリア』

星4 / 光属性 / 天使族 / 攻1800 / 守1500

1ターンに1度、相手の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体を選択して自分フィールド上に特殊召喚することができる。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手は表側表示で存在する他の天使族モンスターを攻撃対象に選択することはできない。

『ガーディアン・オブ・オーダー』

星8 / 光属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守1200

効果

自分フィールド上に光属性モンスターが表側表示で2体以上存在する場合、このカードは手札から特殊召喚することができる。

「ガーディアン・オブ・オーダー」は、自分フィールド上に1枚しか表側表示で存在できない。

遊香LP：4000

モンスター：切り込み天使エンジェル / 攻、

ウイクトーリア / 攻、

ガーディアン・オブ・オーダー / 攻

魔法・罫：伏せ1枚

手札：2枚

『我ノたーん、どろー  
もんすたーヲせつと、かーどヲ3枚せつとシ、たーんえんどダ。』

石像LP：4000

モンスター：裏側1体

魔法・罫：伏せ3枚

手札：2枚

：ほぼカードを伏せるだけでターンエンドか。  
バーンデッキか、それとも……  
今のところ僕ができるのは様子見くらいだね。

「僕のターン、ドロー。」

「切り込み天使<sup>エンジェル</sup>と「ウィクトーリア」を生け贄に捧げて、  
勇士ネオパーシアス<sup>ルレイブ</sup>を召喚。  
バトル。「ネオパーシアス」で……」  
「<sup>エンジエ</sup>天空

『「威嚇する咆哮」ヲ発動。コノたーん、攻撃宣言ヲ行ウ事ガデキ  
ナイ。』

「威嚇する咆哮」……。  
攻撃を防ぐカードって事はやっぱりバーンデッキ？

特殊勝利デッキって事も考えられるし…

「……じゃあ僕はこれでターンエンド」

遊香LP4000

モンスター：ガーディアン・オブ・オーダー/攻2500

エンジェルブレイブ  
天空勇士ネオパーシアス/攻2300

魔法・罫：伏せ1枚

手札：2枚

『えんどふえいずニ、永続罫とくけいヲ発動、「神の恵み」。

自分がかーどヲどろースル度ニ500ぱいんとノらいふヲ回復スル。  
ソシテ私ノたーん、どろー。』

番兵LP4000 4500

『手札カラ永続魔法、「縮回路」ヲ発動。

コノかーどガアル限り、ふいーるどカラ手札ニ戻ルかーどハ手札へ  
八行カズげーむカラ除外スル。

ソシテ裏側守備表示ノもんすたーヲ反転召喚。かーど名は「番兵ばんべい  
ゴ  
ーレム」ダ。

効果ニヨリ、ふいーるど上ノもんすたー1体ヲ手札ニ戻ス。ガ、ふ  
いーるど上ニハ「縮回路」ガ存在スル。ヨツテ、手札ニハ戻サズ  
げーむカラ除外スル。

エンジェルブレイブ  
「天空勇士ネオパーシアス」ヲ除外！』

そうか、そっちか。

あの番兵のデッキはバウンスコントロール。

手札に戻るはずのカードを「縮退回路」でゲームから除外したり、手札に戻すことでボードアドバンテージを得るデッキ。

大量展開を主軸とする僕のデッキとは融こっこになっってしまう凶悪なデッキだ。

せっかく展開したモンスターも短いターンですぐに除外されてしまう。

「更ニりばーすかーど、「強制脱出装置」ヲ発動。

全ふいーるど上カラもんすたー1体ヲ手札ニ戻ス。

シカシ「縮退回路」ガ発動シテイル、ヨッテ手札ニ八戻サズゲームカラ除外。

対象ハ「ガーディアン・オブ・オーダー」ダ。」

「強制脱出装置」に無理矢理乗せられた「ガーディアン・オブ・オーダー」が抵抗も虚しく発射され…  
行き着く先は「縮退回路」。

やがて「ガーディアン・オブ・オーダー」の姿は小さい光となり、「縮退回路」に消えていった。

『…もんすたーヲせつと。』

「番兵ゴーレム」ヲ効果ニヨリ裏側守備表示ニ変更、かーどヲせつとシたーんえんど。』

石像LP4500

モンスター：裏側守備表示モンスター2体（内1枚は番兵ゴーレム）

魔法・罫：縮退回路、神の恵み、伏せ1枚

手札：0枚

やっぱりこのままじゃジリ貧だ。

バウンズカードを介してどんどん除外されていく。

幸い、このデッキには除外されているカードを利用するカードもあるんだけど、それも1枚。

ディファレンシャル  
「D・D・R」だけだ。

速くあのカードを破壊しないと…！

「僕のターン…ドロー…！」

やった！

ドローカードを引いたぞ！

…あれ、もしかしてこれがチートドローってやつなのかな？

「…手札から魔法カード、「シャインS・オブ・ドロー」を発動！  
ライフを半分払い発動する。

自分の墓地の光属性モンスター2体をデッキに戻し、カードを2枚ドローする。」

遊香LP4000 2000

「僕の墓地の「切り込み天使」<sup>エンジェル</sup>、<sup>エンジェル</sup>「ウイクトリア」をデッキに戻す。そしてドロ―

：「快樂の杯」を発動！手札の光属性を2枚まで墓地へ捨て、捨てたモンスターの合計レベル以下のモンスターを手札から特殊召喚する。

手札から「ベルク - Das <sup>ダス・</sup> Greitter <sup>グレッター・</sup> Rittter <sup>リッター</sup>」を捨て、手札から「ベルク」を特殊召喚！」

『<sup>シャイン</sup>S・オブ・ドロ―』

通常魔法

ライフを半分払って発動する。

自分の墓地に存在する光属性モンスター2体をデッキに加えてシャッフルする。

その後、自分のデッキからカードを2枚ドロ―する。

『はあっ！ふう…久々の出番ね。』

「いくよ、ベルク。

「ベルク」の召喚時、<sup>トラップ</sup>畏カード、「激流葬」を発動！」

伏せられていた「番兵ゴーレム」、同じく裏側で伏せられていた「ペンギン・ソルジャー」、そして僕の場の「ベルク」が破壊される。だが破壊されたベルクの破片は一旦空中で散らばるものの、その破片が新たなモンスターを形作る。

「破壊された「ベルク」の効果発動！

このカードが破壊された時、手札・デッキ・墓地より「ベルク - Das <sup>ダ</sup>  
<sup>ス・</sup>  
<sup>グリッター・</sup>  
as <sup>グリッター・</sup>  
Geliebte <sup>グリッター・</sup>  
Ritter」を特殊召喚！」

欠片となった「ベルク」。

それが再び収束、収束した「ベルク」は進化を遂げ白銀の巨体を持つ双龍、「ベルク - Das <sup>ダス・</sup>  
<sup>グリッター・</sup>  
Geliebte <sup>グリッター・</sup>  
Ritter」となる。

「ユベル」の進化系、「ユベル - Das <sup>ダス・</sup>  
<sup>アプシエリッヒ・</sup>  
Ritter <sup>リッター</sup>」と対となるモンスターである。

『ベルク - Das <sup>ダス・</sup>  
<sup>グリッター・</sup>  
Geliebte <sup>リッター</sup>  
Ritter』

星11 / 光属性 / 天使族 / 攻2000 / 守2000

効果

このカードは通常召喚できない。

「ベルク」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。

このカードは戦闘では破壊されない。

相手ターンのエンドフェイズ時に相手フィールド上に戦闘を行っていないモンスターが存在する場合、そのモンスターを全てデッキに戻し、相手に1500ポイントのダメージを与え、自分は500ポイントのダメージを受ける。

このカードが戦闘を行う事によって受けるコントローラーへの戦闘ダメージは0になる。

自分のエンドフェイズ時にこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

このカードがフィールドから離れたとき、自分の手札・デッキ・墓

地から「ベルク - Das Extrem Glücklich D  
rachen」を特殊召喚することができる。

「バトルフェイズ、「ベルク - Das ダス・ Greibeibe グリッター・ Ritter リッ  
ター」で攻撃！プレジヤー・ド・ホーリー！」

『……………』

石像LP 4500 2500

「カードを1枚セットし、ターンエンド。」

遊香LP 2000

モンスター：ベルク - Das ダス・ Greibeibe グリッター・ Ritter リッター

/攻 2000

魔法・罫：伏せ1枚

手札：0枚

『我ノたーん、どろー。』

石像LP 2500 3000

『手札カラ「強欲な壺」ヲ発動、でつきカラカードヲ2枚どろース

ル。』

石像LP3000 3500

ご、強欲な壺……僕がデュエルアカデミアに入学する1年くらい前に禁止カードになったはずだけど…

『ソシテ「スフィンクス・ゴースト」ヲ特殊召喚。

コノカードハ相手ふいーると上二もんすたーが存在シ、自分ふいーると上二もんすたーが存在シナイ場合ニ手札カラ特殊召喚スル事ガデキル。

ソシテ「スフィンクス・ゴースト」ヲ墓地ヘ送り、「守護神エグゾード」ヲ特殊召喚。』

『スフィンクス・ゴースト』

星6 / 地属性 / 岩石族 / 攻0 / 守2100

効果

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードは手札から攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

このカードは自身の効果でしか特殊召喚できない。

『守護神エグゾード』

星8 / 地属性 / 岩石族 / 攻0 / 守4000

このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在する「スフィックス」と名のついたモンスター1体をリリースした場合のみ特殊召喚する事ができる。  
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、地属性モンスターが反転召喚に成功した時、相手ライフに1000ポイントダメージを与える。

来た！「ガーディアン」達の切り札、「守護神エクゾード」！  
しゅごじん

確か…地属性が反転召喚する度に相手に1000ポイントのダメージだったか…？

…でもそれだけじゃないはず……  
きつと攻撃力と守備力を入れ替えるか、それとも……

『伏セテイタ「反転世界」ヲ発動。  
ふいーると上ノ全テノ効果もんすたーノ攻撃力・守備力ヲ入レ替エ  
ル。』

『反転世界』  
通常罫

フィールド上に表側表示で存在する全ての効果モンスターの攻撃力・守備力を入れ替える。

「守護神エクゾード」 ATK0 4000

「……攻撃力が4000……」

やっぱり…。  
攻撃力と守備力を入れ替えたか。  
意外とギミックが仕込まれている、番兵だが迎撃もできる…と。そ  
んな感じが。  
でも防げないわけじゃない…。さあ、来い！

『「守護神エクゾード」デ、ダス・ベルク - Das グリッター・Geliebte  
リッターRitter」ヲ攻撃。』

トランプ「畏カード、「光子化」を発動！相手モンスター1体の攻撃を無効  
にし、その攻撃力分だけ自分フィールド上の光属性モンスターの攻  
撃力を次の僕のターンのエンドフェイズ時までアップする！」

『光子化』  
通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。  
相手モンスター1体の攻撃を無効にし、その相手モンスターの攻撃  
力分だけ、自分フィールド上に表側表示で存在する光属性モンスタ  
ー1体の攻撃力を、次の自分のエンドフェイズ時までアップする。

ダス・ベルク - Das グリッター・Geliebte リッターRitter / 攻2000  
6000

『ナラバたーんえんどダ。』

「…このターンで決める…。ドロー！  
…行くぞベルク！」

『ええ！』

「手札から「フォース」を発動！フィールド上のモンスター2体を選択、エンドフェイズ時まで選択したモンスター1体の攻撃力を半分にし、

その数値分もう1体の選択したモンスターの攻撃力をアップ！

「守護神エクゾード」の攻撃力を半分にし、「ベルク-Das ダス・ G グリッター・ リッター eliebte Ritter」の攻撃力をその数値分アップする！」

守護神エクゾード/攻4000 2000

ベルク-Das ダス・ グリッター・ G eliebte リッター Ritter/攻6000  
8000

『フォース』

通常魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター2体を選択して発動する。

エンドフェイズ時まで、選択したモンスター1体の攻撃力を半分に

し、  
その数値分もう1体のモンスターの攻撃力をアップする。

「バトル！」

「ベルク - Das ダス Gelliebte グリッター Ritter」で「守護神

エクゾード」を攻撃！

プレジャー・ド・ホーリー・クアンダプル！！」

「グオオオオオオ！！！！！！！！！！」

双頭の聖龍となったベルクが白銀に輝くブレスを吐き出す。  
そのブレスが「守護神エクゾード」を焼き尽くしデュエルが終了した。

石像LP35000

「……………でいあは二勝利シタソナタヲ神殿へ導コウ……………」

確かワールドチャンピオンシップ2008だったかな、草原とか砂漠とか、雲の上の天界のステージがあつて、その各ステージで試練をクリアして次のステージに進むっていう遊戯王のゲーム。  
何とか守護者つてやつとデュエルするんだよな。

この石像もその類なんだろうか……………。  
ん、待てよ？

という事はまだまだデュエルしなきゃいけないってこと？！  
うう………そうならない事を祈るか………はあ………

ゴゴゴゴゴゴゴゴ………

そんな事を考えているうちに石像がスウ………と消えていき、先に続く扉が開く。

十代先輩はこの先に進んで行ったんだらうか………

『遊香、進みましょう』

「あ、うん………」



## 第十話 神殿を守る守護兵（後書き）

今回、石像が使用したのは【スフィックス】をほんの少し取り入れた【バウンスコントロール】でした。

あと、石像の見た目は劇中であつた通り、「泣き神の石像」です。その石像の左腕はデュエルディスクになっており、石で出来ている浮いた右手がカードを捲つたり、デュエルディスクにセットしたりしていました。

なお、手札はそれ毎浮いてました。

で、今回登場した「ベルク」の進化系、「ベルク・Das Gelitter・iebt Ritter」ですが、見た目はもう、「ユベル・Das Abscheulich Ritter」の真逆と思つてもらつて構いません。

分からない方は感想へお願いします。

次回予告であります。

石像の試練を乗り越えた少年。

そして動き出す一番目の転生者…

巡り会つた彼は少年が行動する真の意味を問い質す。

次回「挑戦、遊城十代！」

彼は少年に新たな試練を与えるが…

コラボ番外編 第一回 怪獣使いVS指揮者 (前書き)

久々の更新です。

ていうか、一ヶ月以上も更新が止まってしまいました。  
すみません。

で、今回は「怪獣を使う転生者」とのコラボです。  
亀フさん、こんな感じでよろしいでしょうか？

コラボ番外編 第一回 怪獣使いVS指揮者

視点：無し

「うあ、長い！長いんだよこの洞窟う！！」

『あんまり叫びすぎないで。煩いし、体力使うわよ？』

「……分かってるよ…冷静に返さないでよ……」

『あ、あら、ごめんね』

現在、僕達は洞窟を探查中。というよりは人探しである。知っての通り、僕とベルクは万丈目先輩の救出、及びベルクの兄（姉）ユベルと十代先輩に会う為行動している。そしてその途中、一緒に行動していた万丈目先輩が謎の蟲使いの女性と戦った末に敗北、消失してしまい、生死さえも分からない今、当初の目的であった十代先輩達に接触する事に方針を絞り、十代先輩に助けを請うというのが今の僕達の目的であり、万丈目先輩救出の概要だ。

『あら…？』

「どろしたの？」

『何か変な感覚があるのよ。何か…迫って来る様な…』

「そっか……。…!？」

僕も急に変な感覚が…何だこれは…!？

『それに…つてきゃあ!？』

「えっ…べ、ベルク!？」

ベルクが話しているその時、僕は何かを感じ取った。  
その直後、物理的干渉が出来ないはずのベルクが何物かに強く引っ張られ、跡形も無く消えてしまったのである。

「そんな…ベルク……。…今のはいったい……」

確かに感じた異様な感覚…。  
邪悪なものと同時に…人間的らしい気配…。

わけが分からない。  
でも僕はその根源を確かに認識していた。

あれはベルクを取り込んだ奴の気配だ…！

視点：ベルク

『なにこれっ…うごけないっ…！』

遊香と話している途中、突如何かに引つ張られる感覚に奪われた私は、気が付けば真っ白で何も無い世界にいて、見えない何かで縛られていた。

神殿の対精霊用の罫なのか、それとも誰かが意図的に私を連れ去ったのか……

翼も縛られてて動くに動けない…。  
そこに黒い装飾に身を包んだ人物が現れた…性別は分からないわ。

「起きたか…」

『あ、あなた…誰…？』

「お前は人質だ。

あいつを、おびき寄せるためのな。」

そう言いながら去っていく彼…声から男性だとわかったけど…

『人質ってそんな…待って！待ちなさい！』

くっ…やっぱり解けない…。

…遊香…、大丈夫かしら…

視点：黒ローブの男

まさか、精霊に効果があるとは。

意外に使えるんだな、ガラオン。

まあ、捕獲レーザーは後から付けたけど

捕まえる時はビシユメル使ったし。

見付かって危なくなったら笑気ガス出して逃げよう。

「ケケツ…」

でも、デュエルしろって言われてるしなあ…

視点：遊香

あれから数十分、あれから戻るか進むかしか選択肢が無かった僕は進む方を選んだ。

だいたい1キロは進んだだろうか…。

なんて、そんなわけはないけど、それくらいに僕は疲労しているんだと思う。

と、思ったらさっきの石像がいた部屋と似た…いや、構造はほぼ同じだろうか。

そんな感じの広い空間があった。

「1111は…」

『ココヲ通りタクバ…、でいあはデ我ヲ倒シテ見セヨ…』

「ッ………番兵」

部屋の奥は行き止まり。いや、また「泣き神の石像」を模した番兵

が塞いでいた。  
第二の試練って事かな…。

最初の番兵は麦色をしていたけどこいつは鮮やかな橙色をしている…。

「わかった…デュエルだ」

『ナラバ位置へ着ケ…』

「…デュエル！」

『でいあは！』

最速で終わらせなきゃ…。  
ベルクや万丈目先輩を助けないといけないんだから…！

「僕のターン、ドロー！」

手札から速攻魔法、「聖霊の貢ぎ物」を発動！

お互いのプレイヤーはカードを1枚ドロー。その後、僕は光属性モンスター1体を手札から捨てる。

更に「ライオウ」を召喚！

カードを1枚セットしてターンエンド。」

『聖霊の貢ぎ物』

## 通常魔法

お互いに自分のデッキからカードを1枚ドローする。  
その後、自分は手札から光属性モンスター1体を捨てる

『ライオウ』

星4 / 光属性 / 雷族 / 攻1900 / 守800

### 効果

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、お互いにドロー以外の方法でデッキからカードを手札に加える事はできない。

また、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地に送る事で、相手モンスター1体の特殊召喚を無効にし破壊する。

遊香LP：4000

モンスター：ライオウ / 攻

魔法・罫：伏せ2枚

手札：2枚

まずは様子見だ。

橙の石像のデッキが何なのか見極める必要があるからね。  
だからとりあえずは二つの行動を封殺できる「ライオウ」を召喚した。

『我ノたーん、どろー。』

我ハ「有翼賢者ファルコス」ヲ召喚。

更ニふいーると魔法、「デザートストーム」ヲ発動スル。コノ効果

二ヨリ全テノふいーるどノ風属性ハ攻撃力が500あつぷシ、守備力ハ400ダウンスル。』

『有翼賢者ファルコス』

星4 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻1700 / 守1200

効果

このカードが戦闘によって破壊し墓地に送った表側攻撃表示の相手モンスターを、相手のデッキの一番上に戻す事ができる。

『デザートストーム』

フィールド魔法

フィールド上に表側表示で存在する風属性モンスターの攻撃力は500ポイントアップし、守備力は400ポイントダウンする。

有翼賢者ファルコス / 攻1700 2200

「有翼賢者ファルコス」……戦闘破壊したモンスターを持ち主のデッキの一番上に戻すドロロックができるモンスター。

攻撃表示モンスター限定だから、少々使いづらいと思うけど……

となれば、「有翼賢者ファルコス」の様なドロロック効果を持つモンスターでドロロックを行いながらハンデス……手札破壊を行うデッキか……

それとも風属性を主体としたデッキであり、「有翼賢者ファルコス」はその中の主力モンスターの一部に過ぎない。……ということも考えられる。

今のところは後者の可能性が高いね、「デザートストーム」が何よ

りの証拠だ。

『ばとる、「有翼賢者ファルコス」デ「ライオウ」二攻撃』

「デザートストーム」が発動している今、「有翼賢者ファルコス」の攻撃力が「ライオウ」を上回っている。でも簡単にはやらせないさ。

「リバース罠<sup>トラップ</sup>発動、「光子化<sup>フォトナイス</sup>」！

光属性への攻撃を無効にし、攻撃を行ったモンスターの攻撃力分、攻撃対象モンスターの攻撃力をアップさせる！」

『フォトナイス  
光子化』

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、その相手モンスターの攻撃力分だけ、自分フィールド上に表側表示で存在する光属性モンスター1体の攻撃力を、次の自分のエンドフェイズ時までアップする。

ライオウ/攻1900 4100

『ナラバめいんふえいず、魔法カード「地砕き」ヲ発動。』

相手ふいーるとノ守備力ガ1番高イ表側もんすたー1体ヲ破壊スル。』

「…僕のフィールドのモンスターは「ライオウ」のみ。よって「ライオウ」が破壊される」

「ファルコス」によるドロロックは何とか防げたけど、結果的に「ライオウ」が破壊されてしまった。

これで特殊召喚やデッキサーチを封じる事はできない。

もともと、特殊召喚を封じられるのは一回きりであり、限られた特殊召喚封じしかできない。

特殊召喚無効効果を消したいがためだけに「地砕き」を発動する事は比較的少ないのである。

なら、サーチ効果封じを消したかったのだと思うけど…。

『我八魔法カード、「強欲で謙虚な壺」ヲ発動

でつきヲ3枚メクリ、ソノ内ノ1枚ヲ手札ニ加エル。

ソシテ残リノカードハでつきニ加工しやつふるスル。

我ガメクツタ3枚ノカードハ「ジャツカルの聖戦士」、「炎帝テストロス」、「伝説の柔術家」。

我ハ「炎帝テストロス」ヲ手札ニ加工、残リノカードヲでつきニ加工エテしやつふるスル。』

そうか、「強欲で謙虚な壺」…。

あれのために「ライオウ」を破壊したと。

「強欲で謙虚な壺」は強力なデッキサーチカード。

間違われやすいがドロワーではない。

めくった三枚から選んでカードを手札に加えられる柔軟性の高いも

のである。

ただその効果によって特殊召喚が制限されるため、あまり手札に残しすぎるのも良くない。

どの道、特殊召喚は一回は封じられる。だから確かに、この段階で

「強欲で謙虚な壺」を使っておいた方が賢明だ。

僕の予想は当たったみたいだね。

『カードヲ1枚せつと、たーんえんどダ』

橙番兵LP4000

モンスター：有翼賢者ファルコス/攻2200

魔法・罫：フィールド魔法デザート・ストーム、伏せ1枚  
手札2枚

よし、伏せカード1枚なら十分に対処できる！

だけど、それでは攻撃はできないか。

でも今は、安全確保に馴致しよう。

「僕のターン、ドロー！」

…これなら魔法・罫は除去できるけど、ディスプレイアドバンテージにな  
ってしまつかも…

だけど仕方ないか。

「リバースカード発動、「リビングゲットの呼び声」！  
墓地の「ライオウ」を特殊召喚！」

「更に「ライオウ」を生け贄に捧げ、「光帝クライス」を召喚！  
そして召喚成功時、全てのフィールドからカードを2枚まで破壊する事ができる。」

その伏せカードと僕の「リビングゲットの呼び声」を破壊！」

『光帝クライス』

星6 / 光属性 / 戦士族 / 攻2400 / 守1000

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、フィールド上に存在するカードを2枚まで破壊する事ができる。

破壊されたカードのコントローラーは、破壊された数だけデッキからカードをドローする事ができる。

このカードは召喚・特殊召喚したターンには攻撃する事ができない。

『……………ソノもんすたーノ効果ニヨリ、我ハカードヲ1枚どろー』

「僕もだ、ドロー。」

よし、難無く破壊できた。

けど油断しちや駄目だ、現実世界：転成前の世界なら僕の状況は不安定。

今でもそうか。

あの番兵の手札はまだ3枚もあるんだから。

でも僕もドローはできた。

「…「禁じられた聖杯」を発動！

「光帝クライス」は召喚・特殊召喚したターンには攻撃できない、  
だけど「禁じられた聖杯」によりその効果を無効にし、攻撃力を4  
00ポイントアップ！」

『禁じられた聖杯』

速攻魔法

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動  
する。

エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力は400ポイ  
ントアップし、効果は無効化される。

光帝クライス/攻2400 2800

「バトルだ、「光帝クライス」で「有翼賢者ファルコス」を攻撃！」

橙番兵 LP4000 3400

光帝クライスが両手を前に突き出し、掌に光を集める。

その巨大な両腕を包み込むほど輝きを増す光を解き放ち、「ファル  
コス」に撃ち出す。

「ファルコス」が光に包まれ、その光が収まった時には「ファルコ

ス」は破壊されていた。

「カード1枚セットしてターンエンド。」

遊香LP4000

モンスター：光帝クライス/攻

魔法・罫：伏せ1枚

手札：1枚

「我ノたーん、どろー。」

魔法カード、「強欲な壺」ヲ発動。

でつきカラカードヲ2枚どろースル。」

また「強欲な壺」か…。

ある意味デステイニードローと言えるんだが…。

『手札カラ「デビルズ・サンクチュアリ」ヲ発動。「メタルデビル・トークン」ヲ特殊召喚スル』

『デビルズ・サンクチュアリ』  
通常魔法

「メタルデビル・トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）を自分のフィールド上に1体特殊召喚する。

このトークンは攻撃をする事ができない。

「メタルデビル・トークン」の戦闘によるコントローラーへの超過ダメージは、かわりに相手プレイヤーが受ける。自分のスタンバイフェイズ毎に1000ライフポイントを払う。払わなければ、「メタルデビル・トークン」を破壊する。

☐「メタルデビル・トークン」ヲ生ケ贄ニ「炎帝テストロス」ヲ召喚スル

ソノ効果ニヨリ、相手ノ手札ノカードヲ1枚ランダムニ選択シ捨テル。

ソノカードガもんすたーカードデアツタ場合、ソノもんすたーノれる×100ぽいんとノだめーじヲ与エル。』

「ぐっ…！」

遊香LP4000 3300

捨てられたのは「ガーディアン・オブ・オーダー」。

レベル7の光属性モンスターであり、僕は700ポイントのダメージを受けた。

しかも僕の手札はこれで0枚だ。

まだ危ない状況ではないけど…

『魔法カード、「地砕き」ヲ発動。相手ふいーるど上ノ守備力ガ1番高イもんすたーヲ破壊スル』

「光帝クライス」が破壊される…。」

『…「炎帝テストロス」で直接攻撃ヲ行ウ』

炎帝テストロスは口、両掌に炎を集め、その炎を収束させ僕に撃ちだした。

「うっ…ぐ！」

遊香LP3300 900

こんなにライフを削られたのは久しぶりだ…  
でも…！

『かーどヲ2枚伏せ、たーんえんどダ』

橙番兵LP4000

モンスター：炎帝テストロス/攻2400

魔法・罫：伏せ2枚

手札1枚

「僕のターン…ドロー！」

勝った！

これで僕の勝ちだ！

「墓地の光属性「ライオウ」「光帝クライス」をゲームから除外し、  
「ホリーシャイン・ソウル神聖なる魂」を特殊召喚！

そして、「聖霊の貢ぎ物」の効果で墓地へ送った「ゼロ・フェザー」  
の効果を発動！

ライフが1000以下の時、ライフポイントが100になるようラ  
イフを払って発動！」

遊香LP900 100

「ゲームから除外された光属性、自分フィールド上の光属性をそれ  
ぞれから1体以上、合計3体デッキに戻し、このカードを墓地から  
特殊召喚！」

除外された「ライオウ」と「光帝クライス」、フィールドの「ホリー  
シャイン・ソウル神聖なる魂」をデッキに戻して特殊召喚する！」

フィールドに突如竜巻が発生し、「ホリーシャイン・ソウル神聖なる魂」と何処からか現れ  
た「ライオウ」、「光帝クライス」を巻き込んでいく。

次第に竜巻は大きさを増し、ふっと収束を始める。

収束した竜巻は眩しく輝く光の球体となり、その光に翼が生える。

「ゼロ・フェザー」

星1 / 光属性 / 鳥獣族 / 攻0 / 守0

効果

自分のライフポイントが1000以下の場合、ライフポイントを100になるように払って発動する。

フィールド上・ゲームから除外されている光属性モンスターをそれぞれ1体以上、合計3体をデッキに戻し、自分の墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

このカードの攻撃力は、特殊召喚時にデッキに戻したモンスターの攻撃力の合計+500ポイントアップする。

このカードの効果を発動する場合、このターンは通常召喚を行う事ができない。

このカードの効果でこのカードを特殊召喚した場合、エンドフェイズ毎に自分はこのカードの攻撃力分のダメージを受ける。

「……………」

「そしてこのカードの攻撃力は、デッキに戻したモンスターの攻撃力の合計分アップする！」

ゼロ・フェザー / 攻0 5800

「『ゼロ・フェザー』で『炎帝テストロス』に攻撃！フェザーフルバースト……！」

橙番兵 L P 3 4 0 0 0

『……ではあは二勝利シタソナタヲ王の間へ導コウ』

「王の……間って…？」

『……………』

そう番兵に問い掛けても何も答えてくれなかった…でも何故か僕には分かっていた。

この先はすぐに王の間で、そこにベルクと、ベルクを誘拐した奴がいるって…

とても不思議な感覚だ。

「……は…王の間……だよね」

橙の番兵が言っていた王の間……高さはざっと800〜1000m。奥行きもそれくらい、横幅も1000mくらいで、ウルトラマンが立ち上がっても平気なくらいの大ささだ。砂漠の地下にこんなに広い空間が……いや、既にこの上は砂漠ではないのかも。

ピチャ…ピチャ…ピチャ…ピチャ…

水の音！

もしかしてこの上は海なのか！？でも砂漠の先に海があるなんて地図には描いてなかったし…。

「案外、遅かったな。」

「誰だ！？」

王の間には、永続魔法の「太陽の祭壇」の様な建造物がある。そしてその頂上の王座には、黒いローブを着て、真っ黒な仮面を付けた男性が座っていた。

「そつだな、お前と、同類とを考えてくれればいい。」

僕と同類…転成者…？

「ああ、そうだ。

これは、返す。」

そうやって彼は1枚のカードを僕に投げってくる。  
僕はそれを無事に受け取る。

「……ベルク…」

『ごめんね、心配かけて…』

「いや……。君がベルクをさらったのか？」

「俺に、言ってるのか？」

ああ、その通りだ」

「……あまり僕のカードを雑に扱って欲しくないんだけど。」

「まあ、そう怒るなよ。」

俺は、お前とデュエルがしたかったんだよ。」

「僕とデュエル…？  
何が狙いだ！」

「いや？デュエルがしたいだけさ」

…まあいいか。

しらを切るなら仕方ない。  
どのみち僕はデュエルを挑むつもりだったし……

「分かった。デュエルだ！」

「デュエル！」

「先攻は、お前に譲ってやるよ」

「……僕のターン、ドロロー！  
「ヒート・ハーモナイザー」を守備表示で召喚！  
カードを2枚セットして、ターンエンド」

『ヒート・ハーモナイザー』

星3 / 炎属性 / 天使族 / 攻0 / 守1500

効果

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、1ターンに1度だけ自分フィールド上に存在するモンスターは戦闘では破壊されない。

遊香LP4000

モンスター：ヒート・ハーモナイザー/守1500

魔法・罫：伏せ2枚

手札：3枚

「俺のターン、ドロー。」

このカードは手札から守備表示で特殊召喚できる。

「宇宙球体 スファイア」を特殊召喚。」

『宇宙球体 スファイア』

星1/光属性/サイキック族/攻0/守0

チューナー

このカードは手札から表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

このカードはアドバンス召喚のためにはリリースできない。

このカードをシンクロ素材とする場合、「合成獣」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

白くてブヨブヨした物に、黒い血管が浮き上がったような異様な球体が現れる。

宇宙球体スファイア…？

あれって確か、転成前の世界で僕が4歳か5歳の時に放送してた、特撮番組に出てた様な……もしかして、怪獣…？

「更に「宇宙球体 スファイア」を墓地へ送り、「彗星怪獣 ガイガレード」を手札から特殊召喚する。

「ガイガレード」は自分フィールド上に「スファイア」が存在する時、自分フィールド上のモンスター1体を墓地へ送って手札から特殊召喚できる。」

『彗星怪獣 ガイガレード』

星7 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻2600 / 守2200

効果

自分フィールド上に「スファイア」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、自分フィールド上に存在するモンスター1体を墓地に送り、このカードを手札から特殊召喚することができる。

このカードの効果で墓地へ送られたモンスターが「スファイア」と名のついたモンスターだった場合、そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化される。

翼の生えた鯨と言った感じだろうか。

僕の見覚えのある怪獣が現れる。

「ガイガレード！」

「へえ、知ってるのか。まあ、いいや  
更に「ガイガレード」の特殊召喚時に墓地へ送ったモンスターが「  
スフィア」だった場合、効果を無効にして特殊召喚できる。」

「チューナーって事は…」

「そうだ、シンクロ召喚だ。  
レベル7の「ガイガレード」にレベル1の「スフィア」をチューニ  
ング。」

7 + 1 = 8

「シンクロ召喚、「超合成獣 ネオガイガレード」！」

『ビャギイイイイイ!!!』

『超合成獣 ネオガイガレード』

星8 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2500

シンクロ・効果

「宇宙球体 スフィア」 + 光属性モンスター1体以上

このカードが戦闘を行う場合、戦闘を行う相手モンスターの攻撃力  
はエンドフェイズ時まで1000ポイントダウンする。

「「ネオガイガレード」… ガイガレードをスファイアがチューニング  
… 取り込んでスファイア合成獣になるってところかな？」

「だいたい合ってるかな？」

バトルだ、「ネオガイガレード」で「ヒート・ハーモナイザー」を  
攻撃。」

「「ヒート・ハーモナイザー」が存在する限り、1ターンに1度だ  
け自分フィールド上のモンスターは戦闘では破壊されない！」

炎の杖と、指揮棒を持った少女が炎の杖を掲げ炎の障壁を作り出し、  
「ネオガイガレード」が放った赤いビームを四方に弾く。

「… へえ。じゃあ、カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

ローブの男LP4000

モンスター：超合成獣 ネオガイガレード

魔法・罫：伏せ1

手札：3

「僕のターン、ドロー！」

伏せていた永続罫<sup>トラップ</sup>、「血の代償」を発動！

通常召喚権を使用し「ハーモニー・マジシャン」を召喚！血の代償  
の効果を使用し、「ハーモ・ヘッジホッグ」を召喚する！」

『血の代償』

永続罫

500ライフポイントを払う事で、モンスター1体を通常召喚する。この効果は自分のメインフェイズ時及び相手のバトルフェイズ時にもみ発動する事ができる。

遊香LP4000 3500

「『血の代償』か。でもそれじゃ、手札消費が大きくないか？」

「心配ご無用！「ハーモニー・マジシャン」の効果発動！チューナー以外のモンスター1体を選択する。

僕は「ハーモ・ヘッジホッグ」を選択する。

このターンに選択したモンスターとこの「ハーモニー・マジシャン」が同時に墓地に送られた時、デッキからカードを2枚ドロウする。

レベル3の「ハーモニー・マジシャン」、  
「ハーモ・ヘッジホッグ」  
にレベル3、「ヒート・ハーモナイザー」をチューニング！

紅き巨大なる魔物よ、燃え盛る烈火の中で敵を踏み潰せ！」

3 + 3 + 3 = 9

「シンクロ召喚！吠えろ、「ヒート・タイタン・ワーム」！！」

『ヒート・タイタン・ワーム』

星9 / 炎属性 / 昆虫族 / 攻2900 / 守2500

シンクロ・効果

「ヒート・ハーモナイザー」+チューナー以外のモンスター2体以上このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在する天使族モンスターの数×300ポイントアップする。

「ハーモニー・マジシャンの効果で2枚ドロ！」

「ヒート・タイタン・ワーム」の攻撃力は、自分の墓地の天使族モンスター×300ポイントアップする！

僕の墓地の天使族モンスターは「ハーモ・ヘッジホッグ」、「ヒート・ハーモナイザー」の2体が存在する。  
よって攻撃力は600ポイントアップ！」

ヒート・タイタン・ワーム / 攻2900 3500

「バトル！」「ヒート・タイタン・ワーム」で「超合成獣 ネオガイガレード」を攻撃！

タイタン・ヴォルゲイア！！」

「「ネオガイガレード」と戦闘を行うモンスターは攻撃力が1000ポイントダウンする！」

「なに！？くっそ…手札から速攻魔法「突進」を発動！」

ヒート・タイタン・ワーム/攻3500 2500 3200

黒ローブの男LP4000 3800

「カードを1枚セットして僕はターンエンド」

遊香LP3500

モンスター：ヒート・タイタン・ワーム/攻3500

魔法・罫：血の代償、伏せ2枚

手札：2枚

「俺のターン、ドロ」

彼とデュエルしていると、何だか悪寒が走る。

凄く不気味なんだ、こっちの力を試されてるような…

「手札から「宇宙球体 スフィア」を特殊召喚、更に手札から「合成獣ダランピア」を特殊召喚。

こいつは自分の場に「スフィア」がいれば手札から特殊召喚できる。

」

『合成獣 ダランピア』  
星5 / 地属性 / 岩石族 / 攻1700 / 守1200  
効果

このカードはフィールド上に「宇宙球体 スファイア」が存在する場合、手札または墓地から特殊召喚する事ができる。

岩に三本の脚が生えた、蜘蛛のようなモンスターが現れる。

またシンクロ召喚か…。

この状況から見るにネオダランピアか…？

それともネオダランピア…？

「手札から「スファイアの奇襲」を発動。

手札・デッキから「宇宙球体 スファイア」を可能な限り特殊召喚する。

デッキから「宇宙球体 スファイア」1体を特殊召喚。」

『スファイアの奇襲』  
通常魔法

自分の手札・デッキから「宇宙球体スファイア」を自分フィールド上に守備表示で可能な限り特殊召喚する。

このターン、自分は通常召喚を行う事ができない。

この発動に対し、魔法・罫・効果モンスターの効果を発動する事はできない。

ディスクのセットカードが作動しない。

チェーンできない効果を持つのか…  
だけど、チューナーを2体も並べてどうするのか。  
二重にシンクロするつもりか…？

「レベル5の「合成獣 ダランピア」に「宇宙球体 スフィア」を  
チューニング。」

5 + 1 = 6

シンクロ召喚、「超合成獣 ネオダランピア」！」

『超合成獣 ネオダランピア』

星6 / 地属性 / 岩石族 / 攻2500 / 守2100

シンクロ・効果

「宇宙球体 スフィア」+地属性モンスター1体以上

このカードが特殊召喚に成功した時、相手フィールド上に存在する  
カード1枚を装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができ  
る。

このカードの効果によってこのカードに装備されたカードの種類に  
よって、以下の効果を得る。

モンスター：このカードの攻撃力は、このカードに装備されたモ  
ンスターのレベル×100ポイントアップする。

魔法：1ターンに1度、相手フィールド上に存在する魔法・罠カ  
ード1枚を破壊する事ができる。

罠：相手ターンのバトルフェイズ時、このカードに装備されたカ  
ード1枚を墓地に送る事で、相手モンスター1体の攻撃を無効にし、

そのモンスターを破壊する。

『ビギュヒャアアアン!!』

岩で出来た斧の様な腕を持つ岩肌が起き上がったような形のモンスターが召喚された。

な、懐かしい……。

いやいや…鳴き声懐かしいとか言ってる場合じゃない!

「このカードが特殊召喚した時、相手フィールドのカード1枚を装備カード扱いとして装備する事ができる」

「それって…どんな種類でも!？」

「ああ、そうだよ。右側の伏せカードを装備する。」

彼がそう宣言した途端、「ネオダランピア」が斧の様な形の腕を何メートルにも伸ばし、僕の伏せカード…「光神化」を取り込んでしまった。

「くっ…」

そんな…、まさか自分の伏せカードを装備カードとして奪われるなんて。

けど、装備していったいどんな事があるんだ？

相手のカードを装備するモンスター…代表的な物は「サクリファイス」か。

「サクリファイス」は攻撃力が装備したモンスターの攻撃力分アップし、尚且つ装備したモンスターを身代わりにできる効果を持っている。

「ネオダランピア」が同じ効果とは思えないけど…。

「ネオダランピア」が魔法カードを装備している場合、1ターンに1度だけ相手フィールド上の魔法・罠カードを破壊できる。残りの伏せカード1枚を破壊！」

「くっ！」

実質二枚の除去ができるって事か。  
だけどこれは好都合！

「破壊された「ハーモニー・ロケット」の効果発動！

このカードがセットされた状態で破壊された時、デッキからレベル4以下の天使族チューナーを手札に加え、そのモンスターの攻撃力以下の別の天使族モンスターを手札から特殊召喚する！

僕はデッキから「ガイア・ハーモナイザー」を手札に加え、手札から「シキクリボー」を特殊召喚！」

『クツリー』

『ハーモニー・ロケット』

通常魔法

セットされたこのカードが相手によって破壊された時、自分のデッキからレベル4以下の天使族チューナー1体を手札に加え、そのモンスターの攻撃力以下の他の天使族モンスターを手札から特殊召喚する。

『シキクリボー』

星1 / 光属性 / 天使族 / 攻300 / 守200

チューナー

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手はこのカード以外のモンスターを攻撃対象に選択する事はできない。  
このカードがシンクロ素材とされる以外で墓地に送られたターン、自分フィールド上に存在する「シキクリボー」以外のカードは破壊されない。

「まあ、好きにしてくれ。

俺は「ネオダランピア」に「スフィア」をチューニング。」

なんだ？何がくる！？

「シンクロ召喚、宇宙合成獣 ジオモス」。

『宇宙合成獣 ジオモス』

星7 / 地属性 / 悪魔族 / 攻2600 / 守2300  
シンクロ・効果

「宇宙球体 スフィア」 + 地属性モンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、フィールド上に表側表示で存在するこのカードの攻撃力のよりも低い攻撃力を持つモンスターを全て破壊する。

『ヴワアアオウウウ!!!』

ジオモス…!

確か六甲山の岩、宇宙船のネオマキシマエンジン、スフィアが融合して生まれたスフィア合成獣。

物凄い突進でダイナを吹き飛ばした怪獣だ。

ネオマキシマエネルギーで作られる亜空間バリアによって、強固な防御力を誇っていた怪獣でもある。

「『ジオモス』がシンクロ召喚に成功した時、このカードよりも攻撃力の低いモンスターを全て破壊する。」

「なんだって！？クッソ…」

「シキクリボー」が特殊召喚した途端に破壊されてしまった。そのおかげでまだ攻撃されても大丈夫なだけ…

ヒート・タイタン・ワーム / 攻3500 3800

「そして永続魔法、「合成獣の凶暴化」を発動。「合成獣」と名のついたモンスターの攻撃力・守備力は1000ポイントアップし、相手フィールド上の全てのモンスターのレベルは三つ下がる。」

「くっ！」

『合成獣の凶暴化』

永続魔法

自分フィールド上に存在する「合成獣」と名のついたモンスターの攻撃力・守備力は1000ポイントアップする。

相手フィールド上に存在する全てのモンスターのレベルは3つ下がる。

宇宙合成獣 ジオモス / 攻2600 3600 / 守2300 3300

ヒート・タイタン・ワーム/星9 星6

「更に「ジオモス」をリリースして、「超宇宙合成獣 ネオジオモス」をシンクロ召喚扱いとして特殊召喚する」

突如「ジオモス」の背中が割れ、そこから蒼い眼光が光る。

割れ目が更に割れて行き、中から首の伸びた「ジオモス」が現れる。

『超宇宙合成獣 ネオジオモス』

星9/地属性/悪魔族/攻3000/守3000

シンクロ・効果

このカードは正規の方法ではシンクロ召喚できない。

「宇宙合成獣 ジオモス」をリリースした場合のみシンクロ召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する事ができる。

このカードがフィールド上に存在する限り、このカード以外の「合成獣」と名のついたモンスターはカードの効果によっては破壊されない。

超宇宙合成獣 ネオジオモス/攻3000 4000/守3000  
4000

攻守、4000……

くっそ、攻守を1000上げるなんて、なんて凶悪なんだ！

「ネオジオモス」で「ヒート・タイタン・ワーム」を攻撃。」

「シキクリボー」が破壊されたターン、僕のフィールド上のカードは破壊されない！」

「だがダメージは通るよなあ？」

「ぐっ！」

遊香LP3500 3000

「ケケツ……。ターンエンドだ」

黒ローブの男LP3800

モンスター：超宇宙合成獣 ネオジオモス/攻4000

魔法・罫：合成獣の凶暴化、伏せ1枚

手札：0枚

「僕のターン、ドロー！」

「永続罫発動、「スフィアの妨害」」

「えー!？」

「相手がカードをドローした時、墓地の「スファイア」1体をデッキの一番上に戻す事で相手の手札を確認して1枚選択して墓地へ送る。さあ、見せる」

「ツ~~~~!」

遊香の手札：

ガイア・ハーモナイザー

スペル・ヴェーラー

ウィキッド・ハーモナイザー

「へえ、「ガイア・ハーモナイザー」は畏<sup>トラビュ</sup>の効果を受けないと…。

「ウィキッド・ハーモナイザー」は他の「ハーモナイザー」の代わりにシンクロ素材に出来る…ねえ。

なら「ウィキッド・ハーモナイザー」を墓地へ送ってもらおうか」

『スファイアの妨害』

永続罫

相手がデッキからカードをドローした時、墓地の「スファイア」と名のついたモンスター1体をデッキの一番上に戻す事で、相手の手札を確認して1枚選択し、そのカードを墓地へ送る。

「くっ…！」

強い…！何よりカードが強力だ。

モンスターの除去…魔法・畏除去…攻撃力…ハンデスによる戦術の阻止…

これが怪獣…いや、スフィアか…！

「手札から、「ガイア・ハーモナイザー」を召喚！

更に墓地の「ハーモ・ヘッジホッグ」の効果発動！自分フィールド上に天使族チューナーが存在する時、墓地からこのカードを特殊召喚できる！来い、「ハーモ・ヘッジホッグ」！」

僕の場に、先に黒い鉱石が付いた杖と指揮棒を持った少女と、ハーモニカを啜えた翼の生えたハリネズミが現れる。

『ガイア・ハーモナイザー』

星4 / 地属性 / 天使族 / 攻1500 / 守1500  
チューナー

このカードは畏カードの効果を受けない。

『ハーモ・ヘッジホッグ』

星3 / 地属性 / 天使族 / 攻600 / 守600

効果

自分フィールド上に天使族チューナーが表側表示で存在する場合、このカードを墓地から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードが墓地に存在する場合、そのターンのエンドフェイズ時にこのカードはゲームから除外される。

「レベル3、「ハーモ・ヘッジホッグ」にレベル1となった、「ガイア・ハーモナイザー」をチューニング！

黒き三つ首の獣よ、荒ぶる大地に立ち敵を威嚇せよ！シンクロ召喚！来たれ、「ガイア・クエイク・ケルベロス」！！」

『ガイア・クエイク・ケルベロス』

星4 / 地属性 / 獣族 / 攻2100 / 守1500

シンクロ・効果

「ガイア・ハーモナイザー」+チューナー以外のモンスター1体以上このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースする事で、このターンのエンドフェイズ時までこのカードの攻撃力はリリースしたモンスターの守備力分アップする。

「「ガイア・クエイク・ケルベロス」の効果発動！

「ガイア・クエイク・ケルベロス」がシンクロ召喚に成功した時、自分フィールド上の他のモンスター1体を生け贄に捧げる事で、このカードの攻撃力をエンドフェイズ時まで生け贄に捧げたモンスターの守備力分アップさせる！

僕は「ヒート・タイタン・ワーム」を生け贄に捧げる！」

ガイア・クエイク・ケルベロス / 攻2100 5600

「更に手札から「スペル・ヴェーラー」の効果発動！

フィールド上のモンスターの効果が発動した時、このカードを特殊召喚する事ができる！更にこの効果によってこのカードが特殊召喚に成功した時、自分の墓地のチューナー1体を特殊召喚できる！戻って来い、「ウイキッド・ハーモナイザー」！」

「スペル・ヴェーラー」

星2 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻1000 / 守800

自分または相手が効果モンスターの効果を発動した時、手札からこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

このカードの効果でこのカードが特殊召喚に成功した時、フィールド上の魔法・罫カードを破壊し、自分の墓地に存在するチューナーモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化される。

「ウイキッド・ハーモナイザー」

星6 / 闇属性 / 天使族 / 攻500 / 守1500

チューナー

このカードはデッキから天使族のチューナー2体を墓地に送り、手札から特殊召喚する事ができる。

このカードは「ハーモナイザー」と名の付いたチューナーの代わりにシンクロ素材とする事ができる。

ウィキッド・ハーモナイザー / 星6 3

「更に墓地の「ハーモ・ヘッジホッグ」の効果をもう一度発動！  
来い、「ハーモ・ヘッジホッグ」！

レベルが3以下の「スペル・ヴェーラー」、「ハーモ・ヘッジホッグ」はレベルが3下がる事はない！

レベル2、「スペル・ヴェーラー」とレベル3、「ハーモ・ヘッジホッグ」、に、レベル3となった、「ウィキッド・ハーモナイザー」をチューニング！」

2 + 3 + 3 = 8

「格高き調和の弦竜よ、その黄金の偉大な力で我等を導け！シンク口召喚！奏でよ、ストルハーモナイズ・ドラゴン！」

『ヴアアアアアアア.....！！！！！！！！！！』

「（これが切り札か……。）」

『ストルハーモナイズ・ドラゴン』

星8 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻2700 / 守2000

シンク口・効果



「（まあ、こんな感じか。本気でやったら、勝てそうだ）」

黒ローブの男LP22000

…勝った…けど、呆気無かった…。  
多分だけど、彼は実力の半分以上も出してない…。

「教えてくれ、なぜ僕とデュエルがしたかった…？」

「（質問に、答える事も無いか。もう、会うかどうかもわからないしな）……………」

僕の質問を無視し、彼は黒い何かを作り出し、そのままその中に消えてしまった…。  
なんだったんだろう……

『あら、何かしらこれ』

「どっしたのベルク？…！？」

気づくと、ベルクのカードの枠の色がよくある茶色の枠から、金色

の枠へと変わっていた。

テキストも変わっているようだし……

さっきの彼の仕業だろうか……

本当に彼は何者なんだろう……

コラボ番外編 第一回 怪獣使いVS指揮者 (後書き)

結構、遊香がチートだったかも…。

今回はレベル調整に自信が無いかもです。

もし間違いがあれば是非教えていただきたいと思います

第十一話 挑戦、遊城十代！（前書き）

うーむ、最初に想定してた展開とは違うものになってしまいました  
…。

修正するのも難しそうなのでこのままで行きます。

## 第十一話 挑戦、遊城十代！

童実野町・国道上

視点：???

ここか。

ここが童実野町…。童実野町には初めて来るな…。

で、あのマンションの10階にいる奴が深森<sup>しんもり</sup>握徒<sup>あくど</sup>ねえ…  
しかも普通に定職に付いてやがる。

デュエルには飽きたって感じだな…  
偵察する必要無いんじゃないか？

あの片言幻人は何を警戒してんだ？

砂漠の遺跡

視点：遊香

王の間の奥には更なる道が続いていた。  
そして今は、僕達はその道を進んでいる。

ちなみに変色した「ベルク」のカードだけど、数分して元に戻って  
しまった。

何だったんだろうか…

しかし道がこれだけ続くと、『本当に十代先輩はここにいるのか？』  
と考えてしまう。

『十代先輩がここにいる』という情報は、可能性は高いものの、絶  
対に信用できるわけではない。

それは僕が力を借りた情報屋自身が言っていた事だ。

けど僕が当てにできるのはその情報だけ。

『遊香、』

「どっしたの？」

『この数メートル先に誰かいるわ』

「……………ついに十代先輩と対面…かな…？」

『ん、確かに精霊の気配はするわね。兄弟ちゃんだあにえいっていう確証  
は無いけど…』

「見えてきた……………」

視点：十代

『ん…十代、誰か来たみたいだよ』

「んお？こんな遺跡の中にかy…誰だ？」

ユベルの言った通り、誰か来たな。

金髪のセミロングだけど、顔立ちは男みtainな奴…見覚えは無いな。当然か、こんなとこに都合良く知り合いが来るわけねえし。

「あ、あの、僕、真田遊香っていいます

（彼が十代…もとい十代先輩か…GXの時より大分大人になったって感じ…？）」

「どうしてこんな遺跡に来たんだ？」

「あ、はい。僕、あなたを探してここまで来たんです。」

俺を捜しに…？

俺、こいつと面識あったっけか？

「ん…、会ったことあるっけ？」

「あ、いえ、会ったことはありません。だけど…」

『こんにちは』

「うおわ?!」

こいつ（遊香だっけ？）と話したら、急にこいつ（遊香で合ってるよな？）の腰から精霊が現れた。

『まさか、ベルクか?!』

「ってユベル、知ってるのかよ？」

『知ってるってどうか、僕の妹だよ。』

ユベルって妹いたのかよ!?

でも精霊の気配は感じなかったしな…

どうなってんだ…?

「にしても、何で俺を捜してたんだ？」

「あ、はい。実は……………」

視点：遊香

「サンダーが失踪だっけ!？」

「はい…。すみません、僕のせいで…」

「いや…それはお前のせいじゃねえよ…。気にすんな」

僕は十代先輩に今までの経緯を話した。

元々はベルクがユベルに会いたいがために万丈目先輩の力を借りていた事、

この砂漠をこの遺跡を目指して進んでいる途中、正体不明の昆虫族使いの女性に遭遇。

万丈目先輩がこれに挑んだが敗退し、彼女共々消えてしまった事

ちなみに僕はこれを万丈目先輩が連れ去られたと推測したんだけど、これは僕の希望的観測でしか無い。

最悪の場合、考えたくは無いけど文字通り消されたという可能性もある。という僕の推測。

そして、関係ないかもしれないけど、あの黒ローブのスフィア使いの事。

僕が話したのはこれくらいかな。

「蟲龍にスフィアか…、聞いたこと無いな。」

「そうですか…。」

「けど、これからどうしましょう?」

「そうだな…、とりあえずはサンダーを捜そう。」

あいつは絶対生きている。そう信じなきゃな」

「…そうですね。その通りだ」

「…なあ遊香、俺とデュエル」

「流石主人公！いやあ、言う事が違うねえ！」

「っ！？」

「誰だ！？」

通路の奥から現れた謎の男性…

そして瞬間、十代先輩の両目の瞳が、それぞれオレンジとスカイブルーに光る。

「さあ！主人公、遊城十代。俺の挑戦を受けてもらおうか！？」

「主人公…？何のことだ！？」

謎の男性の言葉に、訝しげな表情を見せながら問う十代先輩。

あの男性が言った主人公って言葉…。

まさかあの男も転生者だと言っのか！？

「いいぜ…受けてやる！」

あの男性と十代先輩がデュエルディスクを起動させ構える。そしてお互いにデッキをセットする。

「デュエル！」

…まずは十代先輩のターンだ。

「俺のターン、ドロー！」

エレメンタルヒーロー

「E・HERO アナザー・ネオス」を召喚！

こいつはデュアルモンスター、通常モンスターとして扱うぜ。

そして俺は魔法カード、「馬の骨の対価」を発動！

自分フィールドの効果モンスター以外のモンスターを墓地へ送り、カードを2枚ドローする！

ドロー！」

エレメンタルヒーロー

「E・HERO アナザー・ネオス」

星4 / 光属性 / 戦士族 / 攻1900 / 守1300

デュアル

このカードは墓地またはフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚する事で、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。

このカードはフィールド上に表側表示で存在する限り、カード名を「E・HERO ネオス」として扱う。

『馬の骨の対価』

通常魔法

効果モンスター以外の自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を墓地へ送って発動する。

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

「さらに俺は「古のルール」を発動！」

手札からレベル5以上の通常モンスターを特殊召喚する！  
来い、「エレメンタルヒーローE・HERO ネオス」！」

『フウウウウ、ハアアアアッ！』

『エレメンタルヒーローE・HERO ネオス』

星7 / 光属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守2000

通常モンスター

ネオスペースからやってきた新たなエレメンタルヒーローE・HERO。

ネオスペースとコンタクト融合することで、未知なる力を発揮する！

『古のルール』

通常魔法

自分の手札からレベル5以上の通常モンスター1体を特殊召喚する。

「カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

十代LP4000

モンスター：E・HERO ネオス / 攻2500

魔法・罫：伏せ1枚

手札4枚

場のコンディションは上々かな…？

相手が何を使ってくるかは分からないけど…

「ハッ！俺のターン、ドロー！」

手札からフィールド魔法、「汚染磁場」を発動だ！」

『グウウウウ！』

エレメンタルヒーロー  
E・HERO    ネオス/攻2500    守2000

しゃがみ込み、否応無しに守備の体制を取る「エレメンタルヒーローE・HERO    ネオス」。

このフィールド魔法の影響か…？

「ネオス！どうした?!」

「ハハハハ！「汚染磁場」の発動時、フィールド上のモンスターは全て表示形式を変更してもらっぜ！」

「くっ…」

『汚染磁場』

フィールド魔法

このカードの発動時、フィールド上に表側表示で存在する全てのモンスターの表示形式を変更する。

このカードがフィールド上に存在する限り、フィールド上に表側表示で存在する「汚染」と名のついたモンスターの攻撃力・守備力は400ポイントアップする。

1ターンに1度、お互いのプレイヤーは自分のメインフェイズ時に自分フィールド上のカード1枚を墓地へ送る。

この効果で墓地へ送ったカードは手札に加える事ができない。

「永続魔法「7（セブン）」を発動し、手札から「汚染獣    ダイン」を召喚！」

『7』

永続魔法

「フ」が自分フィールド上に表側表示で3枚揃った時、自分はデッキからカードを3枚ドローする。  
その後全ての「フ」を破壊する。  
このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分は700ラ  
イフポイント回復する。

『汚染獣 ダイン』

星4 / 闇属性 / 獣族 / 攻1800 / 守0

効果

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、自分フィールド上の他のモンスター1体を墓地へ送り、このカードの効果を無効にする事ができる。

このカードはフィールド上の魔法・罫カード1枚を墓地へ送らなければ攻撃宣言を行う事ができない。

フィールド上に存在するこのカードが魔法・罫カードの効果で墓地へ送られた時、相手フィールド上のカード1枚を破壊する事ができる。

汚染獣    ダイン / 攻1800    2200 / 守0    400

汚染獣ダイン：身体の所々が壊死し、体毛もたくさん抜けている狼が現れる。

正直言つて、立っているのが辛そうなくらいだ。

それにしても「フ」なんてカードをどうするつもりだろう…

「『汚染磁場』効果により、「ダイン」の攻撃力・守備力は400上昇する。

バトルフェイズに入るぜ…、「ダイン」で「ネオス」に攻撃する！」

『グオオオオオ！』

『グウ…ウツ…！グアアアアツ！』

「汚染獣 ダイン」が「ネオス」の腕に噛み付く。

「ネオス」は腕を振り、振り払おうとするが耐えられなくなり破壊された。

十代先輩の伏せカードはブラフだったのか…、それとも…「ヒーロー・シグナル」…

「リバーズカードオープン！「ヒーロー・シグナル」！」

やっぱりね…

「デッキから「E・HERO」と名のついたモンスターを特殊召喚する！」

来い、「E・HERO フォレストマン」！」

樹木で出来た肉体を持つ男が現れた。

次のターンで融合召喚を行うつもりだろうか…。



第十一話 挑戦、遊城十代！（後書き）

- 一 応遊城十代への挑戦ですし、
- 一 応試練を与えようとしたので大丈夫ですよね！

大丈夫ですよね…

第十二話 三障神（前書き）

今回は比較的速い投稿です。

当然短いんですが…

まあそれはいつものことかも。

## 第十二話 三障神

視点：十代

「汚染獣 ダイン」の攻撃宣言時、自分フィールドの魔法・罫力  
ードを墓地へ送らなければならない

俺はさつき発動した「7」を墓地へ送る…。そして「7」の効果だ、  
こいつが墓地へ送られた時、俺は700ポイントライフを回復する  
ぜ。」

男LP4000 4700

「ヒヒッ、「ネオス」撃破ア！」

「リバースカードオープン！「ヒーロー・シグナル」！

自分フィールド上のモンスターが戦闘によって破壊された時、デッ

キからレベル4以下の「E・HERO」を特殊召喚する！

来い！「E・HERO エレメンタルヒーロー フォレストマン」！！」

「又ウウ！！！」

肉体が大木で出来たヒーロー、「フォレストマン」が現れる。

まだまだこれからだ、行くぜ「フォレストマン」！

「ハッ！メインフェイズ2、「汚染磁場」の効果により「ダイン」  
を墓地へ送る。」

カードを2枚伏せターンエンドだア！」

モンスターを自分で墓地へ送った？

くっそ、何を狙っているのかさっぱりわからねえ…

男LP4700

モンスター：無し

魔法・罫：伏せ2

手札：1枚

フィールド魔法：汚染磁場

「…俺のターン、ドロロー！」

「フォレストマン」の効果発動！デッキから、「融合」のカード1枚を手札に加える！」

『エレメンタルヒーロー  
E・HERO フォレストマン』

星4/地属性/戦士族/攻1000/守2000

効果

1ターンに1度、自分のスタンバイフェイズ時に発動する事ができる。

自分のデッキまたは墓地に存在する「融合」魔法カード1枚を手札に加える。

「おっと、「汚染磁場」の効果により各プレイヤーは自分のメインフェイズに自分フィールドのカードを1枚墓地へ送らなきゃならんぜ？」

そうか…、それで「汚染獣 ダイン」を墓地へ送ったわけだな。

一見短所にも見えつけけど、多分墓地に送ること何かしらの効果を発動するんだろうな。

「……いま手札に加えた「融合」を発動！

場の「フォレストマン」と手札の「ネクロダークマン」を融合！

来い、「E・HERO エスクリダオ」！」

『エレメンタルヒーロー E・HERO エスクリダオ』

星8 / 闇属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守2000

融合・効果

「E・HERO」と名のついたモンスター + 闇属性モンスター

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在する「(エレメンタルヒーロー) E・HERO」と名のついたモンスターの数×100ポイントアップする。

「「エスクリダオ」の攻撃力は墓地の「エレメンタルヒーロー E・HERO」の数だけ100ポイントアップする！

俺の墓地には「アナザー・ネオス」、「ネオス」、「フォレストマン」、「ネクロダークマン」が存在する。よって攻撃力が2900となる！

バトルだ！「エスクリダオ」でダイレクトアタック！ダーク Dark d  
iffusion!」

「フン！伏せカードくらい警戒しな！

罾発動！「リアクティブアーマー 炸裂装甲」！

攻撃モンスターを破壊する！」

『リアクティブアーマー 炸裂装甲』

通常罾

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

その攻撃モンスター1体を破壊する。

「ぐっ！」

くそ…これは何にも言えねえ。

アイツの言う通り、もっと警戒するべきだったな…

「……、俺は「ネクロガードナー」を召喚。

「汚染磁場」の効果で「ネクロガードナー」を墓地へ送る。  
カードを1枚伏せ、ターンエンドだ。」

十代LP4000

モンスター：無し

魔法・罫：伏せ1枚

手札：2枚

「へえ、いい使い方するじゃねえか。

「汚染磁場」を墓地肥やしに使うとはな。まあ俺のデッキはそういうデッキなんだが」

「…早くしろよ、お前のターンだ！」

「フン、乗りの悪<sup>ワル</sup>イ奴だ。ドロー！」

「汚染虫 ヴォーデン」を召喚！「汚染磁場」の効果により「ヴォーデン」を墓地へ送る。

そして「ヴォーデン」の効果発動！「ヴォーデン」がカードの効果で墓地へ送られた時、相手プレイヤーに1000ポイントのダメージを与える！デストラクトポイズン！！」

『汚染虫 ヴォーデン』

星2 / 闇属性 / 昆虫族 / 攻600 / 守0

効果

このカードは戦闘では破壊されない。

フィールド上に存在するこのカードが他のカードの効果によって墓地へ送られた時、相手プレイヤーに1000ポイントのダメージを与える。

「ぐああああ!!」

十代LP4000 3000

クツ… やつぱりな。

アイツのカードは、フィールドから墓地へ送られることで効果を発動するモンスター達。

でもそうになると対処が難しいかもしれねえ…

「フツハハハハハ! まだまだ行くぜ!

手札の「汚染狂獣 ダイ・ヴァルル・ジン」の効果発動オ!

「汚染」と名のついたモンスターが俺のカードの効果によって墓地へ送られた時、墓地の「汚染」2体をゲームから除外する事でこいつを特殊召喚する! 来いよ「ダイ・ヴァルル・ジン」!!」

『汚染狂獣 ダイ・ヴァルル・ジン』

星7 / 闇属性 / 獣族 / 攻2600 / 守0

効果

フィールド上に存在する「汚染」と名のついたモンスターが自分のカード効果によって墓地へ送られた時、自分の墓地に存在する「汚染」と名のついたモンスター2体をデッキに戻す事で、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚に成功した時、自分フィールド上に存在する魔法・罠カードを墓地へ送る事ができる。

「くっ！」

「（さあてどうするか。どのみちダメージは与えられんだろうな…。いや、あえて本格的なピンチになるまで使わないか。

いずれにせよこのターンで攻撃しない理由は無いな。）

バトル！「ダイ・ヴァルル・ジン」でダイレクトアタック！コンタミネーション・フアング！」

「ぐ…！ぐあああああ…！」

十代LP3000 400

「十代先輩！」

「へっ…、遊香、出会ったばかりの俺を心配してくれるんだな。」

「…あたりまえですよ。」

ハハッ、後輩にはカッコ悪いところは見せねえもんな！

「俺はターンエンドだぜ…！」

「エンドフェイズ時、速攻魔法、「終焉の焰」を発動！

俺のフィールド上に「黒焰トークン」2体を特殊召喚する！」

『終焉の焰』

速攻魔法

このカードを発動するターン、自分は召喚・反転召喚・特殊召喚する事はできない。

自分フィールド上に「黒焰トークン」（悪魔族・闇・星1・攻/守0）2体を守備表示で特殊召喚する。  
このトークンは闇属性モンスター以外のアドバンス召喚のためにはリリースできない。

「そして俺のターン、ドロー!!」

手札から魔法カード「強欲な壺」を発動!デッキからカードを2枚ドローする!ドロー!

へへへ…整ったぜ、お前を倒す準備が!

「へえ?やってみるよ」

視点：遊香

「へへへ…整ったぜ、お前を倒す準備が!」

チートドロー使いのあなたが何を言ってるんですか。

手札2枚で逆転とか言われてもねえ…

さっきの1000ダメージは少しヒヤッとしたけど…

「へえ?やってみるよ」

「お望み通り!

俺は魔法カード、「O-オーバーソウル」を発動!俺の墓地から通常モンスターの「E・HERO」を特殊召喚する!蘇れ、「ネオス」!

『ハアアアッ!』

「O-オーバーソウル」  
通常魔法

自分の墓地から「E・HERO」と名のついた通常モンスター1体を選択し、自分フィールド上に特殊召喚する。

「2体の黒焰くろえんトークンを生け贄に捧げ、出でよ「ユベル」!」

『……………フフ』

この布陣は…あれを出すのか、ライフ回復とバーンを同時にこなすモンスター。

確かあれってアニメじゃ融合モンスターだけど、OCGじゃ効果モンスターになってたよね。

「そして「融合」を発動!俺の場の「ネオス」と「ユベル」を融合!来い、「ネオス・ワイズマン」!」

『……………』

『ネオス・ワイズマン』

星10 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻3000 / 守3000

融合・効果

「E・HERO ネオス」+「ユベル」と名のいたモンスター1体  
このカードはカードの効果では破壊されない。

このカードが戦闘を行った場合、ダメージステップ終了時に相手モンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与え、そのモンスターの守備力分だけ自分のライフポイントを回復する。

このカードが戦闘によって破壊された時、自分の墓地に存在する「

ユベル」1体をゲームから除外する事で、自分の墓地に存在する「E・HERO ネオス」1体を特殊召喚する事ができる。

「行くぞ！「ネオス・ワイズマン」で、「ダイ・ヴァルル・ジン」を攻撃！

更に手札の「オネスト」の効果発動！光属性モンスターが戦闘を行う時、このカードを手札から捨てることで戦闘を行う自分のモンスターに戦闘を行う相手モンスターの攻撃力を加える！」

ネオス・ワイズマン/攻3000 5600

「行け！ネオス・ワイズマン！オネステイ・アルティメット・ノヴァ！！！」

『ハアアアア……ハアアアア！！』

「ぐっ！！クッ……ぐ、ぐああああ！！」

男LP4700 1700 0

「ふう……ハッハッハ……流石は主人公。お強いねえ……」

「答える、お前は何者だ？」

「さあ？答える義理は無いぜ……ヒヒッ……じゃあなあ〜」

「あ！！」

「ッ！待て！！」

今までデュエルしてた男が跡形も無く消えてしまった。  
僕は十代先輩のいるところに走り寄る。

「…………消えちゃいましたね…………」

何で僕の出会った人は皆、用が無くなると消えていってしまっただろう。

「ああ…………。」

しかたねえ、とにかく今は優先することがある…………。」

…………そういえばどうして十代先輩は…………

「十代先輩」

「ん？」

「何故こんな遺跡まで？」

「ああ、それは一番奥の部屋に行けば分かるぜ。」

…………奥の部屋…………、何があるんだろう。



「これは……………」

一番奥の部屋…さっきの大きな部屋（第一回コラボ編参照）と比べて、大きさは無い。

高さはせいぜい6mくらいだろうか。奥行き、幅もそれくらいだ。

そしてその奥には石版が三つ飾られており、  
右の石版には人間の女性の様な顔面をし、蝙蝠の様な翼が生えた四  
つ足の獣。

左の石版には一つ眼で尾が長く、顎に外骨格の棘がいくつも生えた  
飛竜。

そして真ん中の石版には悲しいという表情をした手足が長く、翼が  
生えた土偶のような生き物が彫られていた。

「…知ってるか？この石版に描かれているのは、伝説の邪神らしい。」

「

「……描かれているって…宿っているってわけでは無いんですか？」

まあ感覚で分かるんだろうけど一応聞いてみる。

「いや、それはないさ。」

宿っているなら感じ取れるはずだ。」

やっぱり。」

「で、俺はこいつらが目覚めかけているっていう知らせを受けてな。  
ここで調べていたんだ」

「……………何か分かった事は…？」

「こいつ等の総称は三障神っていうらしくて…」

名前は…右がレデルト、左がザギユエレ、中央がブラモディンって  
名前らしい」

三障神…………レデルト、ザギユエレ、ブラモディン…

「それからこいつ等は、地縛神の始祖とも呼ばれてるらしい。…何の事だろうな。」

じ、地縛神…！この三体が、地縛神の始祖…！？

「……………行くつ遊香。俺はここで調べるとはもう無い。」

「……………あ、はい……………」

で、石版のあった部屋には更に道があり、そこへ進むと眩しい光が見えた。  
出口だ。

「なあ遊香、これからどうする？」

「えつと…」

『はい！はいはい！』

「んお？確か、ベルク…だったよな」

『ええ、そうよ。』

えつと、とりあえずは一旦家に帰って、準くん捜索作戦を考えるつてのはどう？』

「準くん…？ああ、万丈目の事が…まあそうしたほうが妥当だな。」

「ええ、僕もそう思います」

とまあ、とりあえずは空港まで歩きつつ、途中ヒツチハイクを失敗しつつ無事空港に到着。

それから十代先輩と連絡先を交換した僕たちは家に帰りましたとき。

ちなみに今言った過程は4日掛かったよ……………

## 第十二話 三障神（後書き）

今回登場した「ネオス・ワイズマン」はアニメバージョンです。

あと、次回予告はやめます。

どうしても自分の想定してる方向から脱線してしまう事があるので、まあ前回は次回予告はやってませんでしたけど…

## 第十四話 寡黙な少女（前書き）

デュエル無しです。

即ち短い！

ちなみに今回初登場の彼女の容姿は「憑依装着ウイン」に「憑依装着ヒータ」を2で割った感じだと思ってください。

性格は劇中で遊香が言っている通りです。

## 第十四話 寡黙な少女

視点：遊香

帰ってきた。

10日間砂漠での生活だったから流石に疲れたな…。

「遊香〜！」

1階の母さんが呼んでる、何だろ。

「なあにい〜？」

「アンタにお客さんよ〜！」

「僕に客…！？」

誰だろ、家に呼ぶほど仲がいい人は……いや、一応いるけど家の場所は教えてないし…。

「ちょっと遊香あ〜！？待ってるわよこの子〜！」

「あ、は〜い！」

ガチャ

「はい」

「……………」

えっと…女の子がいた。

歳は16歳くらいだろうか。ピンクに少し橙色が混ざった様な髪の色に、細い身体が特徴的だ。

膝辺りまで裾があるコートを着て、短パンを履いている。  
太ももが…いやいやいやいや…／／／／／／

「あ、あの…ど、どちらさまですか…？／／／／／／」

と、言いつつ記憶を探ってみるけど見覚えは無い。

「会いたかった。」

「はい？」

「自己紹介する…、私はアカロノ・トラヴィット…。呼び捨てかアカちゃんって呼んで。」

「は、はあ…」

う、うん、ちょっと不思議な子だ。  
表情は至ってポーカーフェイス。と言うよりも感情がこもっていない。  
こつこつこのを確かクーデレって…

「…私はクーデレではない、感情表現が希薄なだけ…。」  
何故考えることが分かった…

「と、とりあえず上がって下さい」

「…おじゃまします」

とりあえず部屋に上がってもらい麦茶を出した。  
何か分からんが黙って麦茶をズズと飲んでる。  
時々プハア〜とか言って寛いでらっしゃる…んだけど…

「あ、で、ご用件はどういったもので…?」

「あ」

「え？」

「……忘れてた、今回の私の目的はあなたとの接触し情報を交換すること。」

「はあ、情報…ですか。」

「あなたは転生者、合ってる？」

「え！？あ…、合……ってま……す……。」

転生者…どうしてそんな事が分かってしまっただ…？

僕はこの事をベルクにしか言っていない、十代先輩にだって言っていないのに。

いや…むしろ会話を何者かに傍受されているのか…

「…思ったとおり」

「思ったとおり…ですか？

どうしてそんな事を…」

「…あなたより前にこの世界に転生してきた人物のことは知ってる…？」

多分これは深森握徒しんもりあくとの事だろう。

少なくとも僕が愛沙さんから聞いたのは彼の事だけだ。

「深森握徒の事ですね。」

「そう、深森握徒」

やっぱり転生云々の話か……。最近になってようやくそうい話を聞いている気がする。

藍沙さんに出会ったのも卒業後だからなあ……

「あなたは、深森握徒のバックアップとして転生させられた。深森握徒が間違えた時、それを修正する者として。」

「……！僕が深森握徒をバックアップ！？」

「そう。あなたが一番適任だと判断された。」

「……………」

そうか……僕が深森握徒のバックアップ……

でもそうになると、僕が3歳年下だという理由がよく分からない。

僕が彼のバックアップだとすれば、むしろ同じ年や1、2年後輩といた方がいだろう。

でも僕は3歳年下。それが意味することは……

それに彼女、アカロノさんは、僕が適任と判断されたと言った。いったい誰が僕をこの世界に使わしたんだろう。

「一方で、あなた自身が誤った選択肢を選んではまう可能性がある。」

「……………」

まあ、確かにその通りだ。

皆、人間である以上、過ちを犯さない事なんて無い。完璧な生物なんて存在しない。

それは人間を除いても言える事だ。

「…だから、バックアップであるあなたをサポートする役割が必要になる。」

それが笹木愛沙…。すなわち彼女は味方と思っても問題ない。」

「…なるほど。あ、でも…」

「………？」

「えっと、あなたの役割は何なんですか？」

「情報。」

「情報…？」

「そう…、情報。」

私の役目は笹木愛沙と似て否なるもの…。

バックアップという点では共通するが、笹木愛沙は先ほど言った役割と、あなたの力を鍛えるという役割も持っている。」

「僕の力を鍛える…」

なるほどな…。

確かに僕は愛沙さんとデュエルした事で、少なからず腕を鍛えることが出来た。

しかしそれを言ってしまうえば殆どのデュエルで僕は鍛えられているだろう。

つまり愛沙さんはそれよりも、もっと本格的な強化の役割を担っているって事か…

「…そして私の役割は、あらゆる情報を調べ、私の持っている全ての情報をあなたに与え判断を促す。」

「…その際にはいかなる場合も躊躇してはならない。それが私の役割。」

「…そうですね…」

「…あなたや愛沙さん以外にもそんな人はいるんですか？」

「僕や深森握徒をバックアップするような…」

「僕も入れたら3人も存在しているんだ、他に誰かいても不思議ではないだろう。」

「…今現在、確認できているのは私、笹木愛沙、あなた、そして私の兄の4人。」

「これ以上はわからない…、他にいるのかいないのかも。…ごめんなさい…」

「あ、謝らないで下さい。」

「誰だって完璧じゃありません、僕やアカロノさんだってそうです。だから…」

「…ありがとうございます。」

ニコツと微笑むアカロノさん…。

惚れてまうやる~~~~~!!!!!!  
////////////////////

「はあはあ…、あれ、僕何で息切れしてるんだ…？」

「大丈夫…？」

と、顔を覗き込んでくるアカロノさん。その距離およそ10cm！  
って近い！近い！近い！

「あ、はは、は、はいつ！ただ、大丈夫です！  
て、ていうか顔が近いどううえす！」

か、顔が熱い…。

あれ…まさか僕…いや、そんなわけないよね。

僕が出会った人を1時間も経たないうちにす…すk…すすす、す、  
好きになる…なんて…／／／／／／／／／

「遊香…？」

「（。。。）（な…名前と呼ばれ…た…）……………」

これで何回目だろ…僕の意識はそこで途切れた。



第十四話 寡黙な少女（後書き）

やっぱり短かったでしょうか…。

## 第十五話 暗黒の次元人（前書き）

最近、挿絵を入れる方法がわかりました…。  
けどめんどくさい…

## 第十五話 暗黒の次元人

視点：遊香

……………ここはに来るのは四回目だな。

また来た、藍沙さんの作り出したレム睡眠空間。  
でも藍沙さんの姿は見当たらない。

「えっと…藍沙さ…ん！」

……………

叫んでみるが何の反応も無い…。

「あるえ〜？」

真っ白な空間に僕の声ばかり響く。

誰もいないのだろうか？藍沙さんが呼び出したんだと思ったけど…

「あ〜遊香君、ごめん、ごめん。」

「あ…、藍沙さん」

藍沙さんが何処からとも無く走り駆け寄ってくる。

何かあったのだろうか…？

「呼び出されて誰もいないからびっくりしましたよ。  
何かあったんですか？」

「うん。少し準備に戸惑ってね。でももう大丈夫」

準備だって。

何の準備だろう…？

「準備…？」

「うん 知りたい？」

っていうか、凄く教えたそうですね藍沙さん。  
凄く聞いてほしいって顔してるよ…

「え…えっと、…何の準備なんですか？」

「教えな〜い。」

めっさご機嫌な藍沙さん。

教えないんかい！何だよそれ！？ほんとに楽しそうにしやがって…

「嘘だよ〜、ソフフ〜、そんなに知りたい？」

知りたくねえよ。何かどうでもいいよ。

「ウフフ〜、仕方ないなあ〜」

言えよ！そんなに言いたいなら言えばいいだろ！鬱陶しいな！

「実はね……」

視点：ベルク

「遊香：寝ちゃった」

『ホントね』

1cm程頷くアカロノちゃんもといアカちゃん。

アカちゃん曰く「…恐らく笹木藍沙と接触中」らしいわ。  
危険は無いみたいらしいんだけど、やっぱり心配してしまうわね。

「彼の実力が知りたかったが、この状態では不可能…」

彼の実力ねえ。

やっぱりデュエルの実力のことかしら？でもアカちゃんの言う通り  
寝たままじゃね。

『そつね〜…。起きるまで待つかしら…？』

「そうする…。…ズズズ…。…ぷはあゝ…。…」

お茶を飲んで大きく息を吐くアカちゃん。  
アカちゃんの飲んでるのはただの変哲へんてつも無い緑茶。  
そんなに美味しいかしら…？

「（ - 〓 〓 - ）」

和んでるわ、ギャップってやつね…

うん、母性本能くすくすが擦くすられると言っか…／／／／／／／  
い、いやいや、いくらカードの精霊でも女の子に発情したらダメよ  
ね。うんうん

『んん、…それにしても、貴女あなたも精霊が見えたのね。』

あんまり会話が無いのもあれなので質問してみる。

「…私たちはそのほとんどが精霊しんせきを役やくする能力を持っている。  
もっとも厳密げんみつには私は転生者ではないが…」

あら…転生者ではないの？どういうことかしら…？

えっと…遊香の言っていた“原作知識”とやらを持ってると聞いて  
ただけど…

『どういうことなの…？貴女は“原作知識”を持っているってさっ  
き言っただわよね？』

「…確かに言ったが、私は平行世界パラレルワールドの自分と記憶を共有しているだ  
け。

私や私の兄…それからラルア・ファンリバルやヴルエ・ジルニアも。

「

『ラルア・ファンリバル？ヴルエ・ジルニア…？』

ううむ、誰のことかしら…？

「ラルア・ファンリバルは砂漠であなた達万丈目準とデュエル、後に拉致した「蟲籠」使いのこと。

ヴルエ・ジルニアは遊城十代と戦った「汚染」使いのこと」

「ふむふむ」

なあるほどねえ。そんな名前だったのね。

この際だから色々質問してみましようか

『そういえば平行世界って言っていたわよね。なんのことかしら？』

「俗に言つもしもの世界の事。」

『あれよね、あの時こつちを選んでればこつなつてた的なの？』

「そう。それを分岐点と呼称する。この世界の場合、分岐点は…紀元前三千年m…」

『あ、いや、いい！いい！いい！いい！いいです！長くなりそうなんではないです！遠慮します！』

「……………残念」

ああいっしょ話苦手よ。

何億年前に何々が何たらで〜みたいな。鬱陶しいたらありゃしないわ！

視点：遊香

「こっちに来る…？」

「うん、そう。」

「……………どうしてわざわざそれを伝えに…？」

ただ来るだけなら僕に伝える必要は無いはずなんだ。  
最初に会った時のようにいきなり来ることも出来るはず。

「うん、僕がそっちの世界へ行くには、ちょっと強引な手を取らないといけないの。」

笑顔な藍沙さん。色々質問してもらるのが楽しいんだろうか？でも強引な手か…何か嫌な予感…。ん？

「でも前、こっちに普通に来てましたよね？」

「ああ、船乗り場のことでしょ？」

「そうですそうです。船からの帰り道で」

「ね、思い出してみて。僕が君に会いに行ったあの時、君の周りに人はいた？」

……確かにいなかった。

あの船には、僕以外の卒業生、その親御さん達や友人なども乗っていたんだ。

なのに気づくと誰もが消えてしまっていた。最初から誰もいなかったみたい…

思い出すとやっぱり藍沙さんって怖い…。

「いま……せんでした…」

「そつでしょ？」

彼女のこのよく分からない様な表情が恐怖を煽る。

一見何でもなさそうな事を考えてるようで、でも何か裏がありそう  
なこの顔



視点：藍沙

はあ…なんでこんなに僕が叫ばなきゃいけないんだよ…  
遊香君つてもしかして考え込むと周りが見えないタイプ？

「す、すみません。」

僕、考え出すと集中して何も聞こえなくなっちゃうんです…」

「はあ…、そうじゃないかと思ったよ…。」

段々と彼のことが分かってきたかなあ。

とりあえず少しおっちょこちょいで、シャイ…というよりも女の子に疎いか。

でも物分りがいいって感じだね…純粹って感じかな。

あ、今はこんなことを考えてる余裕無かった。

「遊香君、ともかくデュエルしようよ。」

「うん…でも精霊を使役する為のエネルギーって、どうすれば良いんですか？」

ふふふ。知らないんだね

ならお姉さんが教えてあげなきゃ

「簡単だよ えと…遊香君の精霊さんの名前は？」

「「ベルク」ってカードです。」

アカデミアで出会って…それ以来ずっとデッキに入れています。  
ちなみにデッキには3積みです。」

「ん…？それってどゆこと？  
じゃあ遊香君には「ベルク」ってカードの精霊が3体いるってこと  
になるの？」

「あ、違います違います。

カードの数と精霊の数は比例してません。僕の精霊はベルク一人だけ  
です」

「なるほどなるほど。

じゃあ「ベルク」さん召喚すれば良いよ。もちろん「ストルハーモ  
ナイズ・ドラゴン」もね。」

「え〜！」

ありゃ、驚かれちったね。っていうか嫌がってる？

何か問題でもあるのかな…、もしかしてデッキの関係…？

「どうしたの？何か問題でもあった？」

「実は…藍沙さんは、僕がデッキを二つに分けてるのは知ってます  
か？」

ふむ…、思ったとおりだね。

となるとデッキを組みなおす必要があるか。

「遊香君はシンクロ主体のデッキと光属性主体のデッキの二つを使  
い分けてるんだよね。」

「はい。専ら光属性のほうを使っていますが、「ベルク」は光属性主

体のデッキに、「ストルハーモナイズ・ドラゴン」はシンクロ主体のデッキに入ってるんです…。」

「ふむ…じゃあここでデッキを組みなおそうか。」

「ええっ!?!」

ありやりや、驚かれたなあ。

「ま、一応二戦するって方法もあるんだけどね」

「あ、だったら二戦しますですはい!」

わ、凄い勢い。

よほどの思い入れがあるのか、それとも単にめんどくさいのか…

「……わかったよ。でも多分これから先は「ベルク」と「ストルハーモナイズ・ドラゴン」の両方の力が必要になる事があると思うの。」

「……………そうですね」

「うん。だからその時に備えてデッキを組みなおす必要があるんじゃないかな。」

視点：遊香

「……………そうですね。分かりました」

「うん。じゃあ一戦目、始めよう！」

「はい……………」

「デュエル！！」

お互いのデュエルディスクが点灯し、僕と藍沙さんはお互いにデッキからカードを5枚引く。

「順番はどうする、遊香君？」

あ、選ばせてくれるんだ。

うんうん、やっぱり藍沙さんはいい人だよ。

じゃあお言葉に甘えて…

「僕は後攻でお願いします」

「わかったよ。僕のターン、ドロー！」

さて、早速だけど…フィールド魔法、「暗黒界の門」を発動！」

「暗黒界の門」……………最初のころに戦った暗黒界のデッキだね。

あの時はほぼ1ターンキルしちゃったからね……………

と僕の表情から僕の考えてる事が分かったのか、藍沙さんが叫ぶ。

「言つとくけど…あの時とは違うからね！」

手札から魔法カード、「暗黒界の取引」を発動するよ。

お互いにカードを1枚ドロー、カードを1枚捨てる。」

『暗黒界の取引』

通常魔法

お互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローし、その後手札を1枚選択して捨てる。

「そして「取引」の効果で捨てた「暗黒界の狩人 ブラウ」の効果発動、デッキからカードを1枚ドローするよ。」

『暗黒界の狩人 ブラウ』

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1400 / 守800  
効果

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらにもう1枚ドローする。」

「そして「暗黒界の門」の効果発動！」

墓地の悪魔族モンスター1体をゲームから除外することで、手札から悪魔族モンスターを捨てて、デッキからカードを1枚ドロー。で、それにより「暗黒界の尖兵 ベージ」の効果発動！

「ブラウ」と同じ条件でこのカードは特殊召喚されるよ。」

『暗黒界の尖兵 ベージ』

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1600 / 守1300

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードを墓地から特殊召喚する。

『暗黒界の門』

フィールド魔法

フィールド上に表側表示で存在する悪魔族モンスターの攻撃力・守備力は300ポイントアップする。

1ターンに1度、自分の墓地に存在する悪魔族モンスター1体をゲームから除外する事で、手札から悪魔族モンスター1体を選択して捨てる。

その後、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

なかなかの展開力。今のところ手札消費は±(プラスマイナス)して1枚だけ。

ちなみに僕はこのカード達…厳密に言えば「暗黒界の門」のことはまるで知らない。

「ベージ」や「ブラウ」のことは知ってるけど…、多分僕が転生した直後のカードだろうか？

「更に「暗黒界の狂王 ブロン」を召喚。カードを2枚セットしてターンエンドだよ」

藍沙LP4000

モンスター：暗黒界の尖兵 ベージ/攻1600 1900

暗黒界の狂王 ブロン/攻1800 2100

魔法・罫：伏せ2枚

手札：2枚

ふむ…やっぱり「暗黒界の門」があることで展開力が強化されてるな…。

悪魔族の攻撃力を300上げる効果も持っているのか。

これは「暗黒界の門」を潰すべきかも…

「僕のターン、ドロー！」

魔法カード、「おろかな埋葬」を發動します！デッキからカードを1枚、「ベルク」を墓地へ。

続いて魔法カード、「ライト・ラッシュ」！

墓地の守備力1000以下の光属性モンスターを手札に加えます。

「ベルク」を手札に！

モンスターをセット、カードを2枚セットして、ターンエンドです。

┌

『おろかな埋葬』

通常魔法

自分のデッキからモンスター1体を選択して墓地へ送る。

『ライト・ラッシュ』

通常魔法

自分の墓地に存在する守備力1000以下の光属性モンスター1体を手札に加える。

遊香LP4000

モンスター：セットモンスター1体

魔法・罫：伏せ2枚

手札：2枚

今のは少し消費が悪いかも知れない、でも「ベルク」は手札に加えられる。

あとは生け贄確保だな。

「じゃあ、僕のターンだよ。ドロー！」

「闇の誘惑」を発動！カードを2枚ドローし、その後手札の闇属性モンスター1体を除外。闇属性モンスターがいなければ手札を全て捨てる。

：僕は「暗黒界の斥候 スカー」を除外するよ。」

『闇<sup>やみ</sup>の誘惑』

通常魔法（制限カード）

自分のデッキからカードを2枚ドローし、その後手札の闇属性モンスター1体を選択してゲームから除外する。

手札に闇属性モンスターがない場合、手札を全て墓地へ送る。

「そして魔法カード、「暗黒界の雷」を発動！」

フィールドにセットされたカードを破壊するよ。遊香君のセットモンスターを破壊！」

「くっ…。」

破壊されたのは「マシユマロン」…。

魔法・罫カードを選択してくれればまだよかったんだけどなあ…

「そして僕は手札を1枚捨てるよ。そしてこれにより捨てた「シルバ」の効果発動！」

「ブラウ」や「ベージ」と同じ条件で特殊召喚されるよ！」

『暗黒界<sup>あんこくかい</sup>の雷』

通常魔法

フィールド上に裏側表示で存在するカード1枚を選択して破壊する。その後、自分の手札を1枚選択して捨てる。

『あんこくかい暗黒界の軍神 シルバ』

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2300 / 守1400

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードを墓地から特殊召喚する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手は手札を2枚選択して好きな順番でデッキの下に戻す。

暗黒界の軍神 シルバ / 攻2300 2600

なかなかヤバイかも…「ベルク」の召喚どころじゃ…

「ね、多分、僕がこのまま遊香君に攻撃するつもりだとか思ってるでしょ？」

「え…？」

「甘い、甘いよ。僕はデュエルでは絶対に手を抜かないんだ！  
罨カード発動！「魔のデッキ破壊ウイルス」！！」

なにいいいいいいいい！！！！？？

さ、最悪だ…！ベルクが…！？

「フフ…効果は知ってるよね？僕は「シルバ」をリリースするよ。  
さあ、君の手札を見せてよ！」

「うぐ…」

やむを得ず手札を見せる僕。

そして僕の手札の「ベルク」、ついでに「プーテン」が破壊される。



## 報告

突然ですがご報告いたします。

ここまで進めてきた『遊戯王デュエルモンスターズ The ？？ Emperor』ですが、少し、と言うよりも大分ストーリーに行き詰つてきました。

と、言いますのもお金の事情で無線LANや携帯電話の利用が一時的に止まってしまったのをきっかけに執筆が止まってしまい、そのせいで携帯などが復旧してもなかなか執筆がうまく進まず、改めて自分でこの小説を見てみても、『何だよこのストーリーは…？』だとか、『改めて見るとやっぱり変だなあ』なんて気持ち湧き上がってきてしまいます。

この『遊戯王デュエルモンスターズ The ？？ Emperor』自体は完結小説として残しておき、この小説を別の作品として再編しようと考えています。

また、誠に勝手ではありますが再編小説のアイデアやリクエストなどを受け付けたいと思います。

リクエストやアイデアを全て取り入れるのは難しいですが、どんな内容でもいいのでお願いします。

コラボを下さった「亀7」さん、申し訳ありません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9509s/>

---

遊戯王デュエルモンスターズ ?? The Emperor

2011年11月10日04時34分発行